

平成23年度

てだこ市民大学 第2期卒業生研究発表会

プログラム



1. 開会行事
 - (1) 主催者あいさつ
 - (2) 発表会の進め方
2. 全体会(80分)
代表者の発表(各学部代表2名 計8名)
 - ①コミュニティビジネス・地域振興学部
 - ②健康福祉・スポーツ振興学部
 - ③文化振興・教養学部
 - ④地域・学校支援コーディネーター養成学部
3. 各学部毎に分科会(65分)
 - ①代表発表者以外の発表
 - ②質疑・意見交換会
4. 閉会行事
 - ①講評
 - ②閉会のあいさつ

日 時：平成24年3月11日(日)

14:00～17:00

場 所：浦添市てだこホール市民交流室

主 催：浦添市てだこ市民大学

代表発表者

学部名	テーマ	発表者
コミュニティビジネス・地域振興学部	女子力を地域力へ	安座間なつみ
	地域の情報ネットワークづくりを目指して ～朝のラジオ体操会と朝市のコラボで地域に活力～	照屋 喜博
健康福祉・スポーツ振興学部	健康であり続けるために ～スリムで健康で笑(ショウ)～	赤嶺 香
	真の健康福祉の実現を目指して ～スポーツの導入～	外間きよえ
文化振興・教養学部	浦添市観光と地域の活性化を目指して ～街の駅(案内所)構想・地域ポータルサイト 運営を通して～	宮北知佳 福里律子
	沖縄戦最大の激戦地、浦添の戦闘 35 日間と仲間区民がどのような行動をとったのか	宮城 重哲
地域・学校支援コーディネーター養成学部	最協の地域・学校支援本部を立ち上げるために ～友達 100 人作ろうプロジェクト～	池原千佳子
	自治会活動を通したまちづくりと学校支援を考える	大城 幸男





てだこ市民大学

卒業研究

学部名：コミュニティビジネス

地域振興学部

氏 名：安座間 なつみ

1. テーマ

女子力を地域力へ

2. テーマ設定理由

～自身の経験もふまえて～

☐ 女性のキャリアを応援したいという思い。

☐ 将来、「人」にこだわったビジネスを展開したいと考えているため
その第一段階として、地域でできる事から始めてみようと考えたため。

3. 項立て

(1) テーマ設定について

(2) 現状把握・事例調査

(3) ニーズを考える

(4) 連携できる施設・組織

(5) ビジネスとして成立させるために

(6) まとめ

(7) 参考文献

【1】テーマ設定について

今回の卒業研究では「女子力を地域力へ」と題して、子育て中の主婦の能力を地域活性につなげ、ビジネスとして成立させるための仕組みについて取り組んだ。

この題材には2つの要因が入っている。

① かねてより私自身が目標としている「女性のキャリア支援」「働く女性のライフスタイルの提案」をビジネスとして成立させたいという思い。

② てだこ市民大学で勉強することで、“地域”について興味関心を持つようになったが、ふと周りを見てみると私自身が住む集合住宅でさえも、人間関係が希薄であると感じる。

地域の人々の良好なコミュニケーションがその人々に優しい環境を作りあげていき、ひいては子どもが育つ環境が作られるという考え。

以上の2点を何とか結びつけることはできないかとの思いでテーマに設定した。

【2】現状について

① 地域・自治会の現状（平成24年1月現在）

・浦添市の人口

112,369人（前月比+92人） 世帯数 44,700（前月比+25）

平均年齢 38歳（那覇市 41歳 西原町 39歳）

・浦添市の自治会の数

40自治会

・加入状況

（港川自治会を参考に・・・世帯数 2,038 加入世帯数 160 7.8%）

② 子育て支援の現状

・てだこ親子プラン（浦添市次世代育成支援行動計画）

・保育事業（通常、延長、夜間 等）

・病児、病後児保育事業

・放課後健全育成事業（H21年度実施 18か所）

・子育て支援センター、つどいの場（1日20組程度の利用がある）

・ファミリーサポートセンター

浦添市ホームページより

・ハローワーク那覇 マザーズサロン

さらに、浦添市保育課ならびにハローワーク那覇マザーズサロンへのヒアリングを実施
対応していただいた、保育課 崎枝朝子氏によると、ファミリーサポートセンター事業
は、仕事をしながら子育てをする母親にとって大きなサポートになっているとのこと。
ファミリーサポートセンターは有料で一時子供を預かってもらえる。

■平成23年12月現在の会員数

お願い会員 1,102人

まかせて会員 210人

どっちも会員 47人

利用回数 (H23 12月1日～H23 12月末日) 295回

保育園の預かり時間との兼ね合いで迎えから1～2時間の利用であったり、急な残業時
習い事の送迎などが主な利用目的となっている。

また、まかせて会員と母親との信頼関係が確立できると、母親の精神的なサポート（相
談相手）にも効果があるとの事。

有料であることで、かえって適度にルールが保たれ意義深い事業になっているのではな
いかとの見解であった。

ハローワーク那覇の水間氏によると、マザーズサロンでは就業支援・保育所紹介のサポ
ートを実施しており、利用者は幅広いが主に20代、30代の方が多くみられる。

具体的には、求人紹介・応募書類作成・模擬面接などのニーズがあるとの事。

応募書類を作成するにあたりパソコン操作のサポートが追い付かない現状もある。

また、ハローワーク全体として短期就業訓練のニーズが高く、パソコンスキルや医療事
務などが学べるとのことであった。

<ヒアリングを終えての考察>

子供をもつ女性のキャリアサポートに関しては、やはり現実的な支援（保育施設の充実・
ファミリーサポートセンター・資格取得・仕事紹介など）のニーズが高いと考えられる。
別の側面からみると、仕事と子育ての両立、再就職の環境は厳しいことから、多様な働
き方が求められているともいえる。

また、ファミリーサポートセンターのような有料サービスについては、専業主婦やパー
トタイムで働く親には手軽に利用しづらいだろうと仮定すると、公的施設や行政機関
または企業との連携により、これから社会に復帰したいと考える女性のスキルアップと
地域活性を結びつけるメニューの事業化は、地域人財育成に役立つものになるのではな
いかと考える。

【3】 ニーズについて

平成23年12月、“女性のキャリアサポート”をテーマに座談会を実施

参加者：30代（既婚）アロマセラピスト

30代（既婚）専業主婦（0歳の女児子育て中）

40代（既婚）専業主婦

① 仕事や現在のライフスタイルにどのような悩みを持っているか

- ・そろそろ子供のことも考え始めたが、仕事を続けられるか不安
- ・自分に子育てができるのか
- ・子育ては喜びも多いが、毎日が大変であつという間に過ぎてしまう。
ふと、先のことを考えるとまた、仕事復帰できるのか？二人目をどうするのか？
など、色々と考えてしまう。
- ・「〇〇ちゃんのお母さん」ではなく、名前で呼び合える場がほしい
- ・自分が家庭だけではなく、社会に参加している（役立っている）実感がほしい
- ・子育て支援センターに足を運んだが、既にグループができていて場になじめず以降、足が遠のいている。
- ・自宅で仕事をしているが、家事と仕事の切り替えが思った以上に難しい。

② どんなサービスがほしいか

- ・同じような考えをもった人たちと話せる場がほしい。
- ・週1回程度、決まった日時に集まれる場所があると、心のよりどころになる。
→忙しい中、なかなか集まらないのではないかな？
→前もって決まっていれば調整できる。集まれる人で参加する気軽な場にすれば続くのではないかな。
- ・ブログやフリーペーパーでの情報発信もしたい
→フリーペーパーなどを作成することが好きなのでやってみたい
→それぞれが、好き・得意なことを生かせる機会提供（メニュー）があると良いのではないかな。
- ・内面・外面の自分磨きはニーズがあるのではないかな。
- ・自分の今後のキャリアを考えながら、スキルアップしたい。
- ・子育てが落ち着いた後の仕事復帰を考えると、何もアピールできるものがないので今から何か身につけたい。
- ・子育て用品をうまく回してシェアできるようなサービスがほしい。

以上のような意見があがった。

<座談会を終えての考察>

人生には結婚・出産その他大きな過渡期がいくつもあり、様々な適応能力が求められている。

また、潜在的にもっと認められたい、活躍したいと考えている子育て中の女性も多いと仮定すると、仕事に拘束されない期間にキャリアアップを求めるニーズは高いのではないかと推測する。

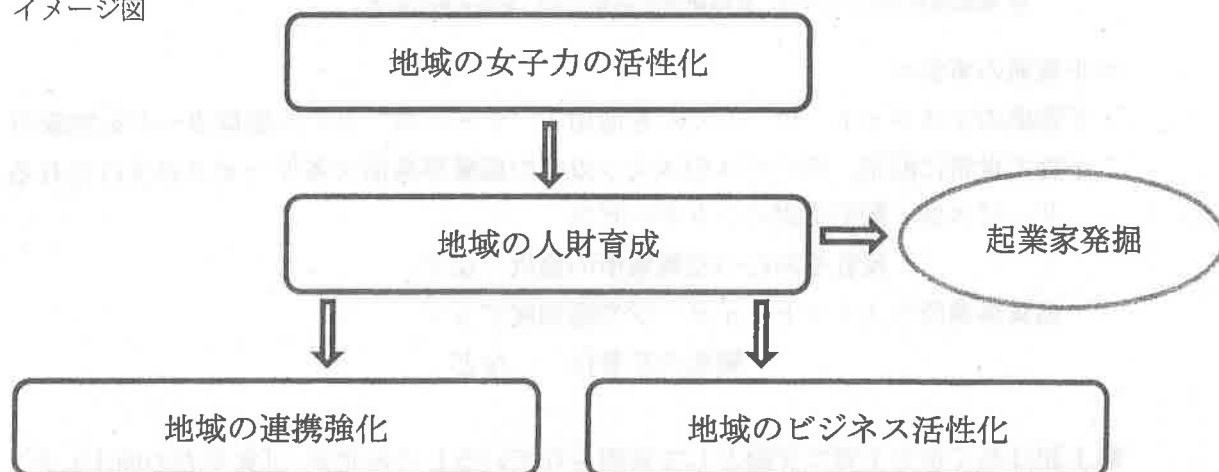
そのひとつの手段として、地域活性プログラムとリンクさせれば参加者の実績を作ることでもでき、可能性は広がると思われる。

さらに、沖縄県は女性起業家も多いといわれている。

沖縄振興開発金融公庫のデータによると起業家の男女比は全国で男性 8 割・女性 2 割であるのに対し、沖縄県では男性 7 割・女性 3 割となっている。

この数字からもうちな一女性の底知れぬパワーを感じ取ることができる。

イメージ図



<地域活性プログラムの一例として>

～浦添市の魅力を発信するタウン誌の作成～

・各分野、テーマごとに発信

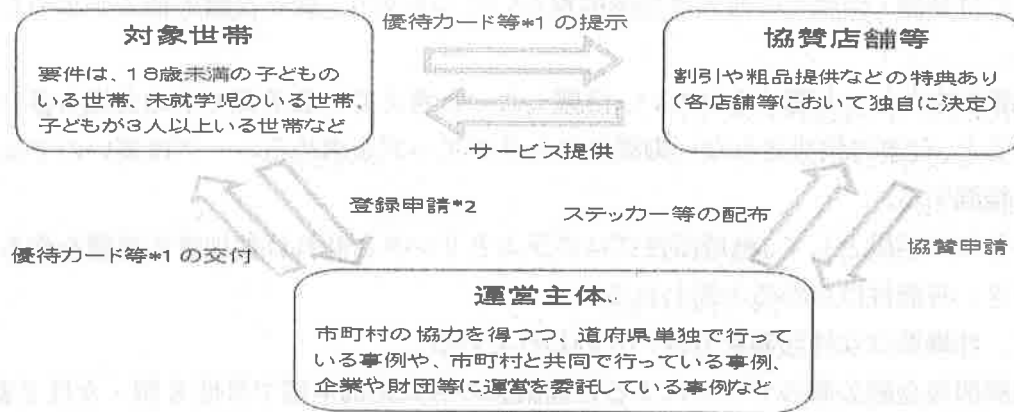
例) 家庭・学校・仕事・カフェ・スクール・人物・・・

企画から取材交渉や紙面レイアウトなど、全てをチームで行う→読者を、地域との接点の比較的少ない 20 代～40 代をターゲットにすることで、地域に関心をもつきっかけになるのではないかな。

また、地元商店街にも情報提供などで参画していただくことにより、協働して地域の発展を目指していけると考える。

<参考：内閣府による～企業参画型子育て支援事業～の取り組み>

<一般的な仕組み>



事業全体の周知(広報誌やホームページ等での告知、テレビや新聞を通じた広報、協賛店舗を紹介したガイドブックの作成など)

*1 優待カード等は実施道府県によって、クーポン券、チラシ、携帯画面などがあります。カード等がなく、子育て家庭を店舗側が目視によって確認する方法を採用している事例もあります。

*2 実施道府県によっては、登録申請の必要がない場合もあります。

=千葉県の実例=

- ・千葉県のマスコット チーバくんを活用し“チーパス”という優待カードを対象の子育て世帯に配布。チーパスのステッカーの協賛事業所で各サービスが受けられる。
- サービス例：割引やポイントサービス
授乳やおむつ交換場所の提供 など
- 協賛事業所のメリット：イメージや認知度アップ
顧客の定着化 など

- 上記はあくまで子育て支援として実施されているしくみだが、「女子力の向上」と「地域活性」をリンクさせるうえで両者が参画し、互いにメリットのある仕組みを作りあげていくことが望ましいと考える。

【4】連携できる施設・組織について

- ・浦添市役所
- ・ハーモニーセンター
- ・各自治会
- ・商工会議所
- ・各事業所
- ・既存の子育てサークル 等々

- てだこ市民大学の講師陣にもアドバイザーとして参加していただく

【5】ビジネスとして成立させるために

(1) マーケティングの視点から

- ・顧客目線による商品、サービスの提供
- ・情報発信の方法
- ・既存サービスとの協働と付加価値の創造

上記3点をベースに考えてみる。

■顧客の明確化

30代、40代の子育て・地域参画・キャリア向上に興味のある女性

■提供するサービス

同じような価値観や目標を持った人々が集まる場の提供(ワーキングチームの発足)

・大人女子の参画型学びプログラム

(例) 1. 地元スーパーの食材で作る簡単節約レシピ

2. プチトレンドなコーディネート術

3. 親子のコミュニケーション

4. ビジネススキル

〈講師はテーマごとに得意とするメンバーがつとめる〉

5. 地域活性化プログラム . . .

大人女子の遊びプログラム

(例) 1. 公園で思いっきり遊ぶ

2. ダンスでストレス発散! (目標: マドンナ、レディーガガ) . . .

■情報発信方法

ブログやフェイスブック

チラシ作成

情報誌にとりあげてくれるよう依頼

無料の広告掲載

イベントをうつ

■既存するサービスとの連携

母親が活動中の子供のケア → ファミリーサポートセンターに協力してもらえないか?

活動拠点については、すぐに固定化することは難しいので、参加者の癒しも兼ねてカフェ等への交渉をしてみる

また、作成などの作業時には、ハーモニーセンターや児童館などへの協力依頼が可能ではないだろうか。

(2) 今後の行動プラン

- 最初は有志2, 3人でスタートする

- 屋号を考える

- 初年度に実施するプログラムを2つ程度に絞る

- ブログ、チラシ等でメンバーを募集する（初年度は10人目標）

※会員制にして年会費をいただくか、プログラム開催ごとに参加費をいただくか検討中

(3) ビジネス性について

- 一年目 収益は見込まず、持ち出しを想定。

とにかく、実績・モデルケースをつくることに重点を置く。

→お金を出しても利用したい（参加したい）プログラムを作り出していく事を意識して活動する。（記録を残していく）

- 2年目 法人化し、行政や企業への提案も行っていく

- 収益事業を立ち上げる（無形サービス・有形サービス）

- ・情報誌の発行（Okinawa 版日経ウーマンのような）

- ・ビジネスや子育てアイテムのプロデュースなど

【6】 まとめ

今回の研究を通して、これから私自身が活動していきたいテーマ「女子力を地域力へ」「女性のキャリア支援」は、本当に今の地域社会のニーズに沿っているだろうか？ビジネスとして成立するのだろうか？その問いかけの連続でした。

研究期間のみならず、このてだこ市民大学に入学してからずっと考えてきた事だともいえます。

入学以降、浦添市の市政や歴史・産業などを学び、ビジネスアイディアやマーケティングなど、多彩な講師陣から多くを学ばせていただきました。

その間も、自身の卒業後の活動テーマについて模索してきましたが、「人財育成に関わる仕事がしたい」「人の成長・学びに喜びを感じる」この事柄が揺らぐことはありませんでした。

やはり、私にはこのテーマがしっくりくと確信したのです。

しかし、その手法については、この研究をまとめた今現在でもたくさんの疑問や不安を抱えています。

ですが、まず、走り出してみることも大事だと、同じ学部仲間が教えてくれました。てだこ祭りへの出店は、準備期間も限られているなか“情熱”と“行動力”が周りをまきこみ、やりとげる事ができました。私はただただ後ろから追いかけることしかできませんでした。忙しい中率先して取り組んだ学部のメンバーから、この“情熱”と“行動力”を学びました。

今回の研究では、●働く親へのサポートや再就職支援の現状 ●活動するにあたりまずやらなければならない事 ●軌道にのせるための課題 などが、具体化してみえてきました。これが、大きな成果だと考えています。

そのためにヒアリングにお伺いした、浦添市保育課の崎枝氏、ハローワーク那覇マザーズサロンの水間氏には、貴重なお時間を頂戴し、情報提供やご自身のお考えを聞かせていただきました。お礼を申し上げます。

今後は、見えてきた課題をひとつひとつクリアにしてき、ニーズに誠実に答えていけば何かしら道は開けると確信しています。

この二年間で得た、人々との出会い、知識、情報、気づきを必ず活かせるよう、失敗を恐れず進んでいく、という決意をもってまとめとしたいと思います。

最後に、この大学を開学していただいた浦添市、サポートして下さった事務局の皆さん、講師陣、学部の仲間、家族全ての人々に感謝の気持ちを贈ります。

～参考文献～

- ・浦添市役所ホームページ
- ・港川自治会ホームページ
- ・沖縄振興開発金融公庫「沖縄公庫取引先からみた開業の現状」
- ・内閣府ホームページ
- ・千葉県ホームページ



卒業研究

学部名： コミュニティービジ
ネス・地域振興 学部

氏名： 照屋 喜博

1. テーマ

地域の情報ネットワーク作りを目指して
～朝のラジオ体操会と朝市のコラボで地域に活力～

2. テーマ選定理由

- ① 都市化、少子高齢化による地域コミュニティや、地域の情報ネットワークの縮小が想定される
ところ、老若男女容易に人が集い、交流し、且つ、地場の野菜や地域の特産品の展示即売の可能性を
検討する。
- ② 移動喫茶（加工なし）等、話題の場を提供しつつ行える収益事業の可能性もある。
- ③ 日曜の早朝という、空き時間利用により個人や家庭のスケジュールに大きな影響を与えることな
く実施できる。（参加し易い）

3. 項立て

1) 概要

- ・毎週日曜日のラジオ体操の時間に合わせて、各自治会広場で巡回体操会と朝市を開催。
- ・数ヶ月に1回、市の屋内運動場で合同ラジオ体操会と朝市を開催。
- ・規模 巡回体操会については1回につき50人以上を目標に。

2) 事例検討

3) ラジオ体操とイベントが連携している事例

4) 具体的な取り組み・タイアップ

①ラジオ体操

- ・自治会長会、体育協会、市老人クラブ連合会、市子供会育成連合会の推薦を受ける。
- ・屋内運動場利用に妻子、市の協力を得る。
- ・子供からお年寄りまで、自治会員以外の住人も参加できるように、呼びかけを工夫する。
- ・ゲームを実施、当選者に朝市商品や入浴券などのサービス券配付。

②朝市

- ・参加対象者、参加の条件
- ・宣伝方法
- ・収益可能性の検討

5) 課題

6) まとめ

地域の情報ネットワーク作りを目指して

～朝のラジオ体操会と朝市のコラボで地域に活力～

コミュニティービジネス・地域振興学部 照屋喜博

1. テーマ設定の理由

市内では毎週日曜日朝に、朝採りの新鮮野菜の即売会を行っているグループや、洋菓子・パン、黒糖の製糖及び黒糖を使った製品の製造など、様々な中小製造販売を営む多くの事業者が頑張っている(7頁 参考資料-2参照)。

一方、浦添市の人口と世帯数が著しく増加しており、2010年の人口及び世帯数を1950年と比べた場合、人口は全国平均が1.5倍であるのに対し、浦添市の場合は10倍、また、世帯数は全国平均が3倍となっているのに対し、浦添市の場合は17倍となっているのである(下表表-1及び表-2より)。

このように、浦添市では急速な都市化や少子高齢化等の影響により、近所に住む人の顔が見えなくなり、大人と子供の接点が薄れてきた。また、自治会加入率が30%程度しかないといわれ、地域コミュニティーや、地域の情報ネットワークが脆弱になってきており、市民祭りやスポーツ大会等の大きな行事は盛んだが、ご近所で日常的に顔を合わせる機会は少ない。

表-1 「浦添市の人口・世帯数の推移」

西暦	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010
男	5,225	11,532	21,779	34,528	44,843	51,475	54,426
女	5,668	12,478	22,719	34,838	45,641	52,833	56,563
合計(人)	10,893	24,010	44,498	69,366	90,484	104,308	110,989
人口増加率	1.0	2.2	4.1	6.4	8.3	9.6	10.2
世帯数(戸)	2,507	5,487	10,624	19,322	28,257	36,982	43,263
世帯増加率	1.0	2.2	4.2	7.7	11.3	14.8	17.3
世帯増加率/人口増加率		1.0	1.0	1.2	1.4	1.5	1.7

「統計うらそえ」43号より

(増加率は1950年を1とした場合の比率)

表-2 「全国の人口・世帯数の推移」

西暦	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010
男	41,241	46,300	51,369	57,594	60,697	62,111	62,327
女	42,873	48,001	53,296	59,467	62,914	64,815	65,729
合計(千人)	84,114	94,301	104,665	117,061	123,611	126,926	128,056
人口増加率	1.00	1.12	1.24	1.39	1.47	1.51	1.52
世帯数(千戸)	16,578	22,538	22,538	35,823	40,670	46,782	51,950
世帯増加率	1.00	1.36	1.36	2.16	2.45	2.82	3.13
世帯増加率/人口増加率		1.2	1.1	1.6	1.7	1.9	2.1

各年の国政調査資料より

(増加率は1950年を1とした場合の比率)

そこで地域の広場に老若男女が集う場を作ることにより、地域住民のコミュニケーションの増進を図ると同時に、朝市と結びつけることにより、地場の野菜や地域の特産品の展示即売が可能になる方法はないかと考えた。

浦添にはこれといった特産品が見当たらない。インターネットで浦添の特産品を検索しても、ブルーシールとオリオンビールとクルマエビしか出てこない。みんなが朝市で情報交換することにより、埋もれている特産品の掘り出しや、何か新しい製品を生み出すきっかけにならないだろうかということがサブテーマである。

2. 概要

人を集めるための仕掛けとして、日曜朝のラジオ体操を考えた。「健康」というキーワードがあり、地域の組織の応援が得やすく、男女や年齢に関係なく人を集めやすい。朝市との時間帯も一致し、日曜日の早朝という隙間時間が使えることも有利。爺様・婆様と孫、親と子の組合せでの参加があればなおよい。参加者にはゲームにより無料賞品が当たる等のインセンティブを与える。

体操と共に朝市を始める。朝市は野菜や地場の製品、半製品を展示即売する。コミュニケーションの場としての喫茶ゾーンを設け、お茶やコーヒーを販売して収益を図る。

3. 野菜等の即売会の事例

1) 浦添市内

① 沢岬地域：

沢岬地域では毎週日曜の朝に自ら栽培・収穫した野菜を持ち寄って、市道沿いで販売している。約10人のメンバーである。野菜だけでなく、近所で作られた豆腐製品も販売されている。平成17年5月15日「ミニファーマーズ」としてスタート。手作り酵素により無農薬を実現。客層は当初、女性が多かったが最近は男性客が増えたらしい。知り合いが増え、情報交換で料理法等の知識が増えたこと、仲間同士のおしゃべりが何より楽しいという。



道路わきに品物を並べて商売開始

H24年2月



おからのおまけ付ユシ豆腐も販売

②前田地域

現在は行っていないが、平成 23 年までは道路わきの空地で野菜即売を実施。住宅建築のために空地が使えなくなったため、場所の確保ができず休止している。

「統計うらそえ」43 号の V 農業及び漁業 によると平成 21 年 12 月 31 日現在の農家個数は 142 で、専業 19 戸（農家総数の 13.4%）で兼業が 123 戸（同 86.6%）で前田 33 戸、西原一区 27 戸、西原二区 11 戸、仲間 11 戸、小湾 9 戸で他の行政区でも数える程となっている。浦添市内の農業は肥培管理容易で台風に強いキビ作を中心とした兼業農家が主流である。作付け面積を前年度と比較すると、甘蔗、野菜類ともに前年度比 1.1%の減となっている。収穫量は、甘蔗 625t、ソ菜類が 285t となっており、市内小売店への流通もある程度あるものと思われる。それらの流通に乗れない中小零細もしくは老後の楽しみなどで栽培している場合も考えられるため、他の地域においても同様の取り組みが模索されていると思われる。市内の生産者には朝市のような場に対する潜在的ニーズがあるものと考ええる。

また、参考資料 1 から分かるように、浦添市内には菓子製造者が多く営業しており、これらの製造業者に出店を呼びかけることにより、ミニ朝市も一層賑わうものと思われる。

2) 県内の事例

①本部町新里区

朝市開始から 10 年。新里朝市会を結成し、毎月第一日曜日に開催している。現在は区民 16 人が野菜や魚介類、鉢植えなどを販売し、区域外からの客も含め、毎回 80 人前後の買い物客でにぎわう。出店者の平均年齢が 76 歳。若者へのバトンタッチが課題。（2011.7.7 沖縄タイムスの記事から）

②名護市羽地山田区

朝市を始めてから約 3 年になる。毎週金曜日の 9 時から開催。

地域の方々が自分たちの小さい畑で採れた野菜などを持ち寄ってくる。

買い手は名護市内の飲食店のプロの料理人たちで、かなり上等な野菜類が並んでいる。客は 40 人ほど。

公民館にはホテルやレストラン等にするための野菜の持込を呼びかけるポスターも張られている。

小さいながらも立派な地産地消がなされている。（2011.11.13）沖縄農業新聞より）

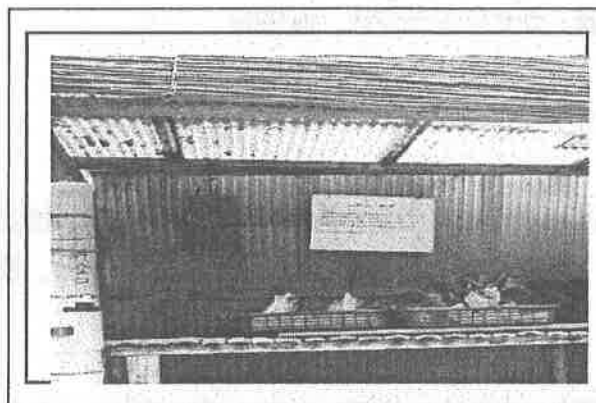
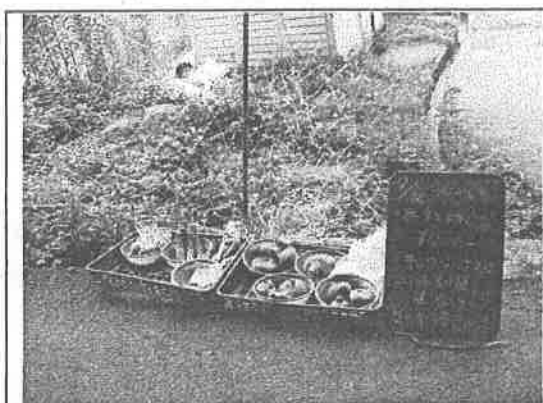


その他にも野菜生産地域では本格的な朝市が営まれているところが数多くあり、道の駅などにも出店している。

3) 全国の事例

全国的にみても、朝市は様々な形で盛んに行われている。下の表はインターネットから拾い出したユニーク地域ミニ朝市の例である。地域発信型、温泉サポート型などがみられる。

		開催日	主体	場所	商品	特徴
農村	JA鳥飼朝市	日曜	JA	久留米市梅満町	朝採野菜	ソラメが売り
温泉街	ふれあいミニ朝市	毎朝	JA有志	長野 渋温泉	山菜、野菜、漬物	宿泊客の楽しみ
農村	ふれあい朝市	日曜		京都府川上村	季節の作物、加工品	ばら寿司 抽選会
港町	きさらず朝市	第1,3土曜		千葉県木更津市 市民会館駐車場	朝採野菜、水産品、 手作り食品、雑貨	イベント実施 スタンプラリー、ミニコン
都市部	穂谷ふれあい市 グループ	毎週日曜		大阪府枚方市穂 谷 神社駐車場	野菜、果樹、花き、 加工品	
農村	泰山楽坂散歩 & ミニ朝市					地域紹介の散歩会 のコースにミニ朝市
農村	無人ミニ朝市			京都府高槻市	朝採野菜	



京都府高槻市の無人朝市

4. ラジオ体操とイベントのコラボレーションの事例

純粹に体操と朝市だけのコラボレーション事例は確認できなかったが、朝市とミニコンサートとかラジオ体操の後に、朝市をコースに取り入れたウォークラリーなどが見受けられた。色々と組み合わせる試みは行われていた。

なお、「NPO法人全国ラジオ体操連盟」という組織があり、これに参加している沖縄県内のグループは、城北小学校グラウンドで活動する「ラジオ体操城北おはよう会」

5. 具体的取り組み

1) 開催場所：自治公民館広場等

2) ラジオ体操：6時30分～7時

①人を集める：自治会の協力をはじめ、趣旨を理解してもらうために市内の老人連合会、子ども

会育成連合会等にも健康保持と健全育成目的とすることで協力を依頼する。気功の実演やその他の種類の体操やマッサージ方法など色々な体操の実演を試みる。

また、ラジオ体操の後にゲームを行い、入賞者に賞品を授与。賞品としては朝市出店者から数点、市内のスポーツ施設等から施設利用券を数点。これらは宣伝用として提供してもらうよう要請する。

＜ゲームの検討例＞（反復横跳び、垂直跳び、腕相撲、昔の遊び応用）

＜健康度チェック等＞（血圧測定 他 ）

②スケジュール：午前6時30分に集合し、体操開始。体操終了後、6時45分から7時までをゲームタイムとし、7時にゲームの表彰式実施。7時以降8時までは適宜、特技などを披露。

③スタッフ：音響係1名、体操係1名＋地域の有志
てだこ市民大学卒業生との協力を模索する

④機器：カセットラジオ、血圧計

2) 朝市 6時30分～8時

①出店者募集：自治会を通して地域の農業者、漁業者、製造販売業者へ呼びかけて出店してもらう。出店者の掘り起しには自治会、商工会、市役所、農業共同組合等の情報を利用する。

②陳列台：自治会に依頼してテーブルを貸してもらう。移動用、簡単組み立てのテーブル数個を製作できればなお良い。

③売値の工夫：朝の体操が目的で集まった人の購買意欲を高めるための工夫として、「100円均一」コーナーのスペースや、出店者の自己紹介、栽培・製作方法の紹介文を準備することなども出店者に提案する。市の魅力アップにつながり、宣伝のうたい文句になる。

3) 喫茶ゾーン「お茶＋お菓子100円」で「喋り場」創出

お喋り等にはお茶が付き物。お茶飲み放題にお菓子を付ければ100円で販売可能と考える。仕入れ値を工夫して収益が出るようにする。また、健康情報、仕事情報などを記載したパンフレットを準備してお喋り・情報交換の環境をつくり、リピーターの確保を図る

4) 宣伝方法

健康、健全育成、コミュニケーションをキーワードとして協力依頼

①自治会広報紙への掲載を依頼。

②浦添市のホームページへの掲載を依頼。

③地域FM21への取材依頼、地元紙の地域限定ミニコミ紙の取材依頼

④自治会等に参加していない住民へインターネットのブログを利用して伝える。

⑤ツイッターで実況中継風に現場状況を伝える。

6. 財務（仮想）

1) 費用 (2,500 円)

- ・体操と朝市の設備費：自治会の協力などにより、不要。
- ・体操協力者に謝礼 1,000 円
- ・喫茶ゾーン：緑茶+お菓子 (30 円×50 人分=1,500 円)

2) 売上 (8,000 円)

- ・出店者より運営経費：300 円×15 店=4,500 円
- ・喫茶ゾーン：緑茶+お菓子 (100 円×50 人=9,500 円)

3) 収益 売上－費用 7,000 円/回

7. 課題と対応

- ・朝市のターゲットをどうとらえるか → 当面、地域住民
- ・ラジオ体操と朝市をどう結びつけるか。→ 一品を体操賞品に提供
- ・運営主体をどうするか → 老人会、子ども会、青年会、生産者等に呼びかけて体操同好会と朝市同好会を立ち上げて永続可能な仕組みを作る
- ・雨天時の対応 → 自治公民館使用の依頼・・・必ず行うことが肝心
- ・地域のイベントとかわち合わないよう、市役所や自治会から情報を入手する。
- ・朝市終了後の片付け、清掃 → 参加者が積極的に片付けするよう声かけをする
- ・一過性で無く、続けて行けるイベントとするために、工夫をすることによって収益性が高まるなど、ゲーム感覚でこのコラボを楽しんで運営できる人材の育成が必要。

8. まとめ

人を集めるには安全性の確保など、様々な要件と条件があり（参考資料 3）、それらの要件や条件を整える必要性と、自治会や老人会組織などの協力を如何にして得るか、自治会加入者以外への広報の方法、体操のニーズはあるか、出店者のニーズはあるのか、一地域で毎週実施するのが難しいのであれば当面は4地域程度を巡回する等、更に検討が必要だ。

この事業は色々と広がりのある部分を包含したところがある。欲張らず、あせらず、消費者目線と経営者目線という異なる視線で検討し、参加者が魅力に感じることを常に追求し、目からうろこのアイデアを見つけて更にすばらしいものに変えて行く努力をしていけばよい結果が得られると確信する。

「虚仮（コケ）の一念、岩をもとおす」（誰であろうと不断の努力により大事を成すことができる）

参考資料 1

浦添市内の製造業（電話帳より抽出した浦添市内の中小製造業の一部）

工房うるはし はし 浦添市 伊祖 3-35-3-1 875-6220

外間くるま鋳製造販売所 鋳製造販売 浦添市経塚 523 098-877-1021

平良とうふ店 豆腐、湯豆腐、おから 浦添市経塚

<菓子製造>

株式会社黒糖本舗垣乃花 浦添市宮城 6丁目 4-15 877-1135

〔インターネット通販 / 菓子製造 / 健康食品卸 / 健康食品製造 / 健康食品販売 / 砂糖 / 砂糖菓子製造 / 砂糖製造 / 塩・製塩 / 塩販売 / 自然食品卸 / 自然食品製造 / 自然食品販売 / 通信販売〕

ケーキハウス・ナシロ [菓子製造 / 菓子店 / 洋菓子店] 前田 2丁目 16-8

こだわり屋 [菓子製造] 大平 448-1 877-7888

古波倉商会 879-1982 [菓子製造] 勢理客 1丁目 20-5

仲宗根黒糖 [菓子製造 / 菓子店 / ジャム・マーマレード製造 / みやげ品] 経塚 466-1 0120-922878

旭食品工業 [菓子製造] 浦添市仲西 2丁目 4-18 877-5025

垣花食品 [飴菓子店 / 菓子製造] 添市勢理客 3丁目 4-13-1F

古波倉商会 [菓子製造] 添市勢理客 1丁目 20-5

佐和田洋菓子店 [菓子製造 / 菓子店 / 洋菓子店 / 和菓子店] 浦添市屋富祖 2丁目 2-3

有限会社しろま製菓産業 [菓子製造] 浦添市宮城 4丁目 13-3 0120-935887

有限会社根間商事 [菓子製造] 浦添市宮城 2丁目 16-6 878-5093

ベーカリーアルペンローゼ [菓子製造 / パン製造・卸] 浦添市伊祖 3-13-9 878-3008

有限会社やんばる商事 [菓子製造] 浦添市仲西 2丁目 4-19-2 0120-217020

参考資料 2 全国のラジオ体操会 県別登録数

北海道	227	山梨	1	鳥取	0
青森	0	富山	2	島根	0
岩手	1	石川	2	岡山	25
宮城	6	福井	4	広島	29
秋田	1	岐阜	4	山口	1
山形	20	静岡	25	徳島	13
福島	5	愛知	28	香川	6
新潟	3	三重	11	愛媛	1
群馬	16	滋賀	3	高知	3
長野	0	京都	4	福岡	5
茨城	2	大阪	39	佐賀	0
栃木	0	兵庫	63	長崎	7
埼玉	50	奈良	6	熊本	1
千葉	12	和歌山	0	大分	7
東京	326			宮崎	0
神奈川	15			鹿児島	0
				沖縄	1
	684		192		99

合計 876

NPO法人 全国ラジオ体操連盟ホームページより著者調整

参考資料 3

人を集める要件（「人を集める」著者・堀 貞一郎）

・人が幸せを感じる 12 の要件

＊人が幸せを感じるには 12 の要件があり、それが満たされると場所に人は集まってくる。

- ①個体維持本能を満足させるもの……食
- ②固体の機能と健康を増進させるもの……健康
- ③種族保存の本能を充足させるもの……セックスアピール
- ④種族反映の本能を満足させるもの……試合
- ⑤帰属意識を満足させるもの……仲間意識
- ⑥他人と差別化できるもの……ステイタスとアイデンティティー
- ⑦日常性から脱却できるもの……現実からの逃避
- ⑧射幸心を煽るもの……射幸心
- ⑨所有欲を満足させるもの……物欲
- ⑩心と感性を豊かにするもの……心、感性
- ⑪知識を豊かにするもの……知識欲
- ⑫好奇心をみたすもの……珍しいもの

・CSCS・・・人を集める必要条件

人が集まる場所の条件としては「人間としての存在が脅かされないこと」が重要

①Clean…安心して集まれる清潔な環境

人を集めるには清潔を保つこと。清潔感を出すことが大事。

②Safety…安全な環境であること

人が集まる場所は暴力沙汰も起きやすいので治安や安全には気配りが重要。

③Communication…心と心のつながり

いかにしてそこに集まるか、時間や場所、集まることのメリットなどの情報を性格に伝えるシステムが大事。客の待ち時間を有効に使えるような配慮した情報を伝えることも大事。最も大切なものは心のコミュニケーションで言葉より表情、目が大切。

④Speedy…時間を有効に使う

客の時間を大切にし、スピーディーのことを運ぶことが大切

CSCSを心がけ、快適な環境を作り、人が幸せを感じる 12 の要件を考慮して企画を立てれば人は集まってくる。

顧客の満足 → → 人を集めること = 顧客を満足させる

実質商品価値 - 顧客のそれに対する期待値 = 顧客満足度



卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏名：赤嶺 香

1. テーマ

健康であり続けるために ～スリムで健康で笑（ショウ）～

2. テーマ設定理由

私は、平成23年9月1日の講座「健康浦添21」で講師の仲地直子先生の「早寝・早起きをして、朝日をしっかりと浴び、バランスの良い朝食を摂取するように心がける事で肥満や生活習慣病が予防でき、さらに運動を取り入れる事で身体のリズムが整い体調管理がしやすい」という事を学びました。

特に講座の中で紹介されたCさんの事例に興味を持ちました。Cさんの事例をもとに、自分自身も食生活を見直し減量することができるか？

運動を取り入れる事で健康的になれるか？実践してみようと思いテーマを設定しました。

3. 項立て

1. テーマ設定の理由
2. 研究の目的
3. 本論（実践）
 - (1) 浦添市の医療の現状
 - (2) 講座のCさんの事例紹介
 - (3) 自分自身の事例紹介
 - (4) 自分自身の食生活の改善方法と実践
 - (5) 自分自身が健康になるための運動方法と実践
4. 成果と課題
5. 考察
6. これからしたいこと
7. 参考資料
8. 謝辞

てだこ市民大学卒業研究テーマ

「健康であり続けるために」

～すりむで健康で笑（ショウ）～

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏名：赤 嶺 香

1. テーマ設定の理由

私は平成23年9月1日の講座「健康浦添21」で講師の仲地直子先生の「早寝・早起きをして朝日をしっかり浴びバランスの良い朝食を摂取するように心がける事で肥満や生活習慣病が予防でき、さらに運動を取り入れる事で身体のリズムが整い体調管理がしやすい」という事を学びました。

特に講座の中で紹介されたCさんの事例に興味を持ちました。Cさんの事例をもとに、自分自身も食生活を見直し減量することができるか？運動を取り入れる事で健康的になれるか？実践してみようと思いテーマを設定しました。

2. 研究の目的

- (1) 食生活を見直すことで減量でき健康増進につながる
- (2) 運動量を増やすことで体力増進につながる。
- (3) 規則正しい生活習慣を身につける事で体調管理がしやすい。

3. 本論（実践）

- (1) 浦添市の医療の現状（保健相談センター仲地講師の資料から）

①浦添市における死因別死亡状況について

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
平成 17 年	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	自殺
平成 18 年	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	その他の呼吸器系疾患
平成 19 年	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	その他の呼吸器系疾患
平成 20 年	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	その他の呼吸器系疾患
平成 21 年	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	その他の呼吸器系疾患

○調査結果から平成 21 年から過去 5 年間にわたり、心疾患と脳血管疾患の死因が 2 位～4 位になっていることがわかる。

心疾患や脳血管疾患は生活習慣病と大きな関係があるといわれる。

②65 歳未満の死亡の割合（平成 20 年度）について

	総数	男性	女性
浦添市	24.8	31.1	17.6
沖縄県	21.9	28.5	13.8
全国	15.8	20.2	10.9

○浦添市では、死因別死亡の中で、65 歳未満が 4 人に 1 人を占めている。さらに、全国、県と比較して 65 歳未満の死亡率が高い。

③浦添市の老人医療費は年間 1 人当たり 1,125,854 円(全体の 37%)で、県内 5 位、全国や県平均よりはるかに高い。浦添市の医療費用は、年間 9,238,644,709 円で月別一人当たりは 252,690 円の高額である。

<浦添市の医療の現状からわかったこと>

◎生活習慣病は、日常の乱れた生活習慣の積み重ねによって引き起こされる病気で、肥満症、高血圧症、高脂血症、糖尿病高尿酸血症、脂肪肝、アルコール性肝障害などが該当する。

65 歳未満の死亡率が高いことから若い年代から健康診断を受け、生活習慣予防が必要であることを痛感した。

(2) Cさんの事例紹介

① 氏名：Cさん 年齢 44歳 性別 男性

② 特定検診でメタボリックシンドローム予備軍と診断され保健指導対象となる。

③ 二次検査で自身の体の状態をきちんと知った。

④ 身体にいいと思い毎日野菜ジュース（1.5ℓ中ジュースの内、砂糖スティック 13 個分）を飲んでいる。

↓

保健指導を受けて気づいた事。

⑤ 毎日飲んでいる野菜ジュースには糖分が多く含まれていることを知りショック

⑥ 夕食の量が少し多かったことに気づく。

↓

保健指導後

- ⑦ 毎日飲んでた野菜ジュースからお茶へ代えた→糖分が0 g
- ⑧ 夕食の量を減らした。

結果・・・9.7 kgの減量に成功した。

(3) 自分自身の事例紹介

- ① 氏名：赤嶺 香 年齢：51歳 性別：女性
- ② ここ数年は3食多めに食べ間食・夜食も多い。
- ③ 酎ハイ(350ml) 1缶を毎日飲む(でんぷん10.5 g、199 ㎉)
- ④ 就寝時間がばらばらで運動量はほとんどしていない
- ⑤ 体重57, 2 kg

(4) 自身の食生活の改善方法と実践

上の自分自身の事例からもわかるように、規則正しい食生活をしてないのがわかった。ここ数年で体重が増え服のサイズが変わり身体が重くなったのを感じ始めながらも何の手立てもしていない現状を改善するために食生活の摂取方法を見直し実行することにした。

- ① 3食バランスよく食べることを心がけた。(好き嫌いをしない)
- ② 間食は日中の早い時間に少量だけ食べた。(以前の半分)
- ③ 夕食時間を早めにした。(19時30分までに摂取)
- ④ 酎ハイ(350ml)は週末に飲む。(7本→2本へ減らした)
- ⑤ 早寝・早起きを実践 (22時 就寝・6時 起床)

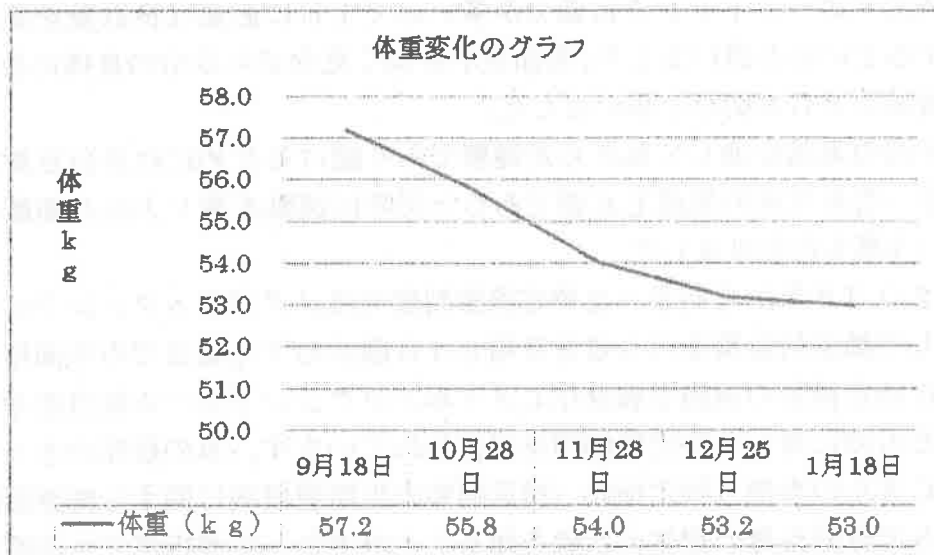
(5) 自分自身が健康になるための運動方法と実践

健康における運動の大切さは誰もが知っていると思います。でもどんな運動をしたらいいのか？どうしたら継続できるのか？自分自身にどんな運動が合うのかがわからなくて、つい運動不足になっていました。そこで私なりの運動方法を見つけ自主トレーニングメニューを作成して実践することにした。

自主トレーニングメニュー

- ① ストレッチ→柔軟性の改善、関節可動域の改善(20分)
- ② ふくみ運動→肩甲骨と背筋の可動域の改善(20回)
- ③ スキャップライズ→肩甲骨と背筋の可動域の改善(20回)
- ④ ストレッチポール→リラクゼーション 背筋(20分)
- ⑤ 自転車→有酸素運動(20分)
- ⑥ ウォーキング→有酸素運動(20分)
- ⑦ 筋トレ→筋力増強を維持

ここまで紹介した自主トレーニングメニューを週2回2時間程度実践した。その結果・・・4, 2 kgの減量に成功した。



実践前の体重→57, 2 kg	ウエスト→66 cm
実践後の体重→53, 0 kg	ウエスト→63 cm
☆体重の変化 →-4, 2 kg	ウエスト→-3 cm

4. 成果と課題

私は平成23年9月18日から平成24年1月18日までの4ヶ月間で食事の摂取方法の改善と健康になるための運動方法を自分なりに見出し実践してきました。その結果4、2 kg減量することができました。

今までの生活習慣をほんの少し変えるだけで減量できる事がわかりました。

今後も50 kgを目指し継続していきたいと思います。

ちょっとした努力で今までの体型よりスリムになり、ゆったりとした時間の中での自分に合った運動で重い身体が軽くなり心身ともに健康になり笑顔が増えすりむで健康で笑（ショウ）になった気がする一方で私自身が実践した成果は自己流であることから栄養のバランスや食事の摂取の仕方、運動のメニューや量についても未知の部分が多いこともわかりました。

今後は専門的な分野からの指導助言も加えながら自分にあった健康づくりをしていくことの課題をみつけることもできました。

5. 考察

講座の中からヒントを得て自分自身の生活習慣の見直しをすることができました。例えば、沖縄の行事で欠かせない沖縄てんぷらは衣が多いほどカロリーが高いため調理する際は衣を少なめにする工夫をしました。

また、調理に使用する油はなるべく控え、茹でる・蒸すの調理法に変える事を心がけました。サターアンダギーは油で揚げる調理法のため見た目以上にカロリーが高いため食べた後は運動量を増やす努力をしました。手軽に購入できる飲料水には思った以上の糖分が含まれている事もわかりました。

特にスポーツドリンクは糖分が多いので1日に必要な摂取量を決めて飲むようにすると思いました。食品表示をよく見ながら自分の身体に合った食品や分量を選ぶことも大切だと思いました。

今回の実践を通して私たちが健康であり続けるためには自分自身を良く知り自分に合った食生活の見直しも必要であると同時に運動を取り入れる健康づくりが大事だという事もわかりました。

2008年から始まった特定検診制度ではメタボリックシンドロームの概念を応用して糖尿病対策を行う事を目指し40歳から74歳までの中高年保険加入者を対象に特定検診の実施を義務化しメタボリックシンドローム該当者や予備軍と判断されたものに対して特定保健指導が行われています。私の研究のきっかけとなりましたCさんの事例も特定検診（糖尿病等の生活習慣病に関する健康診断）を受診したことで自分自身の身体の状態を知ることができ、保健指導で生活習慣を直すことが出来た一人だという事もわかりました。

私たちは自分自身の健康を過信してはいけないという事も研究を通して学ぶ事ができました。

6. これからしたいこと

てだこ市民大学で学んだ2年間で多くのことを習得しました。

平成23年度入学式の余興や同年7月に行われたグランドゴルフ大会行事運営を事務局から任せられた時、学部の団結力や絆を強く感じました。その時のメンバーと卒業する前に「健スポ楽笑倶楽部」を結成して、てだこ市民大学卒業生として地域のキーパーソンとなり、社会体育課や健康推進課等と連携して地域の健康づくりの活動をしていきたいと考えています。

・てだこポケット倶楽部の結成（4学部で4つのポケット）

7. 謝 辞

今回の卒業研究をするにあたり、私にヒントを与えてくださいました講師の仲地直子先生、情報を提供して下さいましたCさんに感謝をいたします。そして、なによりも2年間の学びの中で喜怒哀楽を共にした学友の皆さまにも感謝致します。

てだこ市民大学を開校して多くの老若男女に学びの場を与えてくださいました関係者の皆さま、学部長、講師の皆さま、事務局のスタッフ皆さまにも心から感謝申し上げます。

※参考資料

講座資料（仲地直子先生講座）。ロクト整形外科運動メニュー。

フリー百科事典『ウィキペディア』



**「かおりさん少しや
せたでしょう〜！」**

(23年10月13日の
バトミントン実習に
て)

**「バトミントンは
誰でも楽しめるス
ポーツですよ。まず
は選手の練習を見
て下さい」**



**♪♪ 入学式の懇親
会ではチームワーク
で余興を披露・・・
学部長も参加して踊
りました♪♪**

(23年5月15日)

**♪♪ いつもに
こにこ楽しいク
ラスです ♪♪**

**(23年9月22
日グループ発表
の後の記念撮影)**





卒業研究

学部名： 健康・福祉スポーツ振興学部

氏 名： 外間 きよえ

1. テーマ

「真の健康福祉社会の実現を目指して」
～スポーツの導入に成果を求める～

2. テーマ設定理由

少子超高齢化のこの時代、財政圧迫の要因となる医療費の増加を防ぐことを目的とし、市民一人一人が、まずは、医療費の現況を理解し、そのためにできること……

- ・寝たきりにさせない ・引きこもりにさせない
- ・特定受診率のアップ ・幼少期からの健康教育の推進を図る

ためにも、成果のでるスポーツを導入して、真の健康福祉都市を作っていきたいとの思いから。

3. 項立て（概要でも良い）

1、 テーマ設定の理由

2、 本 論

（1）浦添市について

（2）浦添市の人口構成について

（3）浦添市の医療費の実態について

（4）浦添市の財政状況について

3、 結 論

4、 おわりに

5、 参考文献・資料

6、 謝 辞

「真の健康福祉社会の実現を目指して」 ～スポーツの導入に成果を求める～

学部名： 健康福祉・スポーツ振興学部

氏名： 外間 きよえ

1、テーマ設定の理由

・少子超高齢化のこの時代、財政圧迫の要因となる医療費の増加を防ぐことを目的とし、私達浦添市民一人一人が、まずは、医療費の現況を理解し、そのためにできること、

- ① 寝たきりにさせない。
- ② 引きこもりにさせない。
- ③ 特定受診率のアップ。
- ④ 幼少期からの健康教育の推進を図る。

そのためにも、成果のでるスポーツを導入して、真の健康福祉都市“てだこの街”を作っていきたいとの思いから、今回の研究テーマとする。

2、本 論

(1)浦添市について

浦添市は、沖縄本島の南に位置し、東シナ海に面する西海岸沿いにあり、東に西原町、南に那覇市、北東に宜野湾市が隣接していて、那覇市・沖縄市・うるま市に次ぎ、沖縄県第4の規模をもつ市である。

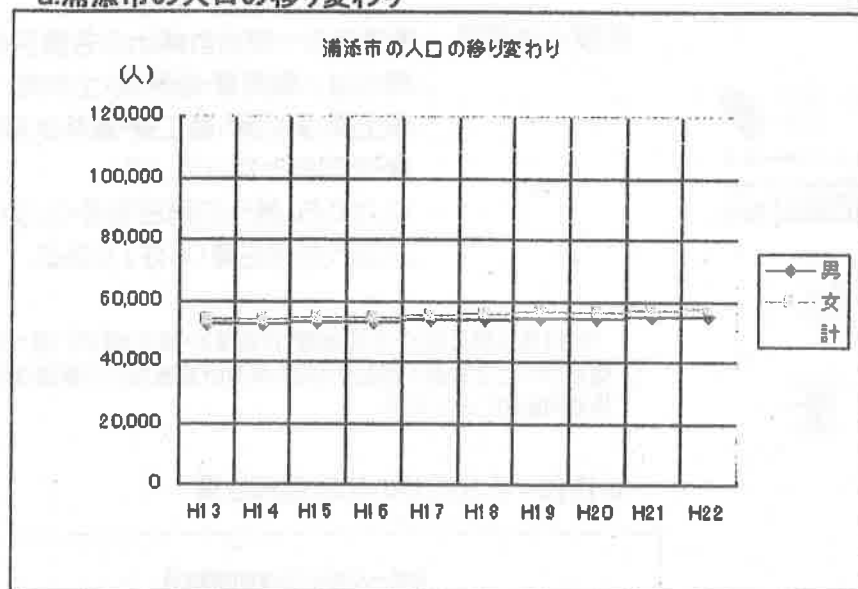
全国でも高い出生率を誇り、那覇市に隣接していることから、人口増加が著しく、人口密度は5,694/km² (2007年3月31日現在)と、県内では那覇市に次いで2番目である。県内でも有数の商業・工業が活発な市である。

1970年に浦添村から浦添市となり、1998年(平成10年)1月には、人口10万人目達成となる。



(2) 浦添市の人口構成について

a. 浦添市の人口の移り変わり



年度	男	女	計
H13	51,747	53,023	104,770
H14	52,077	53,408	105,485
H15	52,453	53,768	106,221
H16	52,750	54,060	106,810
H17	53,166	54,591	107,757
H18	53,484	55,147	108,631
H19	53,757	55,660	109,417
H20	53,971	56,135	110,106
H21	54,426	56,563	110,989
H22	54,612	56,983	111,595

(図1)

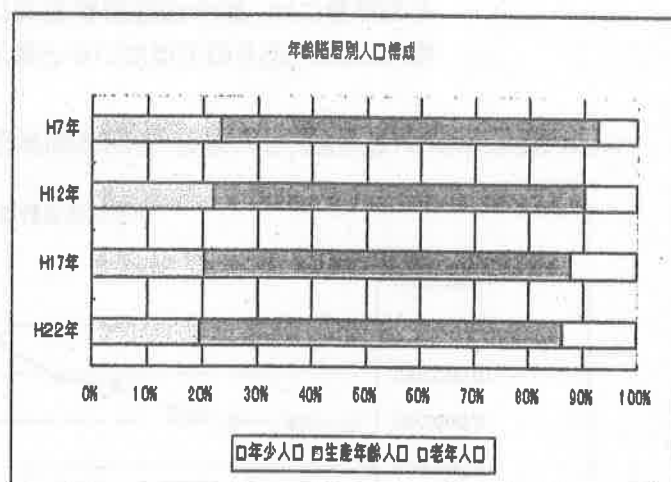
(表1)

※aの解説: 浦添市の人口は年々増加傾向にあり、平成20年度からは、常に11万人を越える人口となっている。ちなみに、平成24年3月号の広報うらそえによる浦添市の人口は、男54,964人・女57,405人、合計112,369人となっている。平成24年1月末現在の人口密度は、5,831/km²で、平均年齢は、男37,21歳・女39,31歳、全体では、38,28歳となっている。

b. 浦添市の年齢階層別人口構成

年	年少人口 (0～14歳)	生産年人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)
H7年	22,420	66,408	7,172
H12年	21,892	68,413	9,917
H17年	21,528	71,343	13,169
H22年	21,712	74,360	15,523

(表2)



(図2)

※bの解説: 15～64歳の生産年齢人口割合が最も高く、60%以上を占めており、老年人口が10%台と最も低い状況である。しかし、経年で見ると、老年人口の割合は、平成7年の7.5%に比べ、平成22年では、14%と2倍以上に増えている。

a.平成22年度 一般会計歳出



その背景には、昨今の経済状況等による生活保護受給者が
増えたこともあるのではないかと考えられる。

※注)民生費とは・・・生活保護・児童福祉・母子・障がい者への福祉サービスや老人福祉の増進・保育所運営などの事務・事業に係るお金のことである

市民一人あたりの年度別民生費

年度	民生費 (円)
H12	77,000
H13	83,000
H14	83,000
H15	88,000
H16	87,000
H17	100,000
H18	102,000
H19	105,000
H20	113,000
H21	129,000
H22	146,000

(图5)

年度別各会計支出済額

年度	国民健康保険	介護保険	老人保健	後期高齢者医療
H12	7,500,000	2,800,000	3,500,000	2,500,000
H13	8,000,000	3,200,000	3,500,000	2,800,000
H14	8,000,000	3,200,000	3,500,000	2,800,000
H15	8,500,000	3,200,000	3,500,000	2,800,000
H16	9,500,000	3,200,000	3,500,000	2,800,000
H17	10,000,000	3,200,000	3,500,000	2,800,000
H18	11,500,000	3,500,000	3,500,000	3,200,000
H19	12,800,000	3,800,000	3,500,000	3,500,000
H20	12,000,000	4,200,000	3,500,000	3,800,000
H21	12,500,000	4,500,000	3,500,000	4,200,000
H22	12,800,000	4,800,000	3,500,000	4,500,000

(圖6)

※図6の解説: 医療費は年々増加する一方で、常に浦添市の国保財政は厳しい財政運営となっている。平成20年度においては、3億5千万円の初めての赤字となった。急務となった国保財政の改善として、国保税の改定(引き上げ)を平成14年以来8年ぶりに改定された。

※1世帯あたり8,600円負担増 ～平成22年4月から適用～

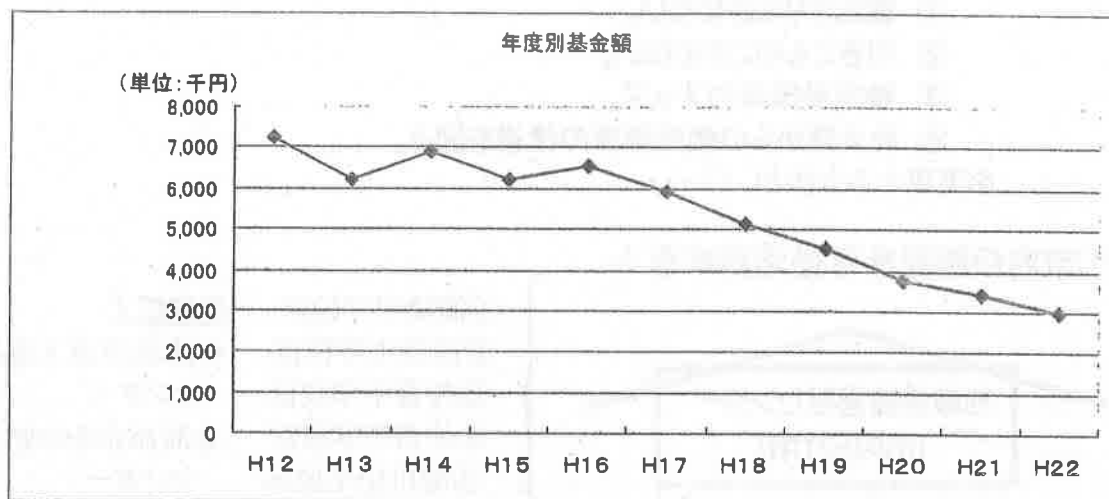
平成21年度は、1億8559万4000円の赤字で、前年度よりは赤字幅は少しばかりではあるが縮小された。

しかし、依然として国保財政は厳しい状況には変わりないと言える。

※浦添市の医療費は、毎年2～4億円の伸びで、一般会計からの繰り入れや基金取り崩しで補てんしてきている。

平成12年には約72億あった基金も、平成22年には約29億円となっている。 ※図7参照

●市有財産の状況(基金のみ)



(図7)

※以上のことから、平成20年度から平成24年度までの5ケ年間で特定受診率や保健指導率65%を達成できない場合はペナルティーが課せられる？

↓

国からの国保補助金が減額される！？

↓

市民への国保税負担が増える！？

↓

生活保護申請者・受給者が増え、さらに民生費の歳出割合が増える！？

他にも、平成22年3月開催の第152回浦添市議会(定例会)で、又吉正徳福祉保健部参事より、「本市の医療費の伸びは、対前年度の同月比でいくと、一月あたり4,000万円から5,000万円の伸び方を示しており、年間にすると6億円。いつも言っています2億円から4億円の幅をさらに上回るような伸び方が見られたということで12月で補正をさせていただいたのにもかかわらず、まだ不足しがちであるという……」答弁がなされている。

～平成22年3月市議会(定例会)議事録より抜粋～

税がおいつかないという現実がある



医療費の高騰による国保税の改定(引き上げ)が予測される！

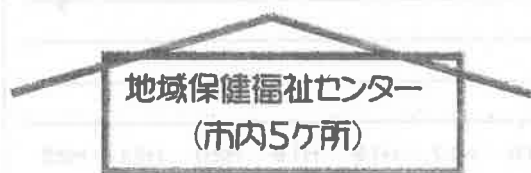
3、結 論 ～その1～

私の今回の研究テーマである、

- ① 寝たきりにさせない。
- ② 引きこもりにさせない。
- ③ 特定受診率のアップ。
- ④ 幼少期からの健康教育の推進を図る。

を実現する方法として……

①市内の施設を有効活用する！



- ① 浦添中学校区
- ② 浦西中学校区
- ③ 神森中学校区
- ④ 仲西中学校区
- ⑤ 港川中学校区

※他に！

- ☆浦添市老人福祉センター
- ☆浦添市かりゆしセンター
- ☆まじゅんらんど

《地域保健福祉センターとは…》

・高齢者やその家族の皆さんが安心して地域で暮らしていけるように、介護に関する相談から健康や病気の問題、福祉サービス等に関すること等、総合的な相談を受け、問題の解決に向けた援助を行う。

市民が身近な地域で相談できるようにと、2ヶ所の地域包括支援センターのほか、5つの中学校区ごとに設置している身近な地域の相談窓口。

=行政区名=

- ① 浦添中学校区: 仲間・安波茶・経塚・前田・大平・茶山団地・ニュータウン・グリーンハイツ・公務員宿舎・浦添ハイツ・県営経塚
- ② 浦西中学校区: 西原1区・西原2区・当山・広栄・浦西・安川団地・当山ハイツ・陽迎橋
- ③ 神森中学校区: 小湾・勢理客・内間・沢岬・神森・県営沢岬
- ④ 仲西中学校区: 城間・屋富祖・宮城・仲西・浅野浦
- ⑤ 港川中学校区: 伊祖・牧港・港川・緑ヶ丘・浦城・牧港ハイツ・港川ハイツ・港川崎原・上野・マチナトタウン・浦添市市街地



※市内すべての小学校区域に設置

②健康うらそえ21の理解促進をはかる！

(健康うらそえ21とは…浦添市の健康増進計画書のこと)

～中間みなおし資料より抜粋～

- ◆活動できる85歳をめざす → → 寝たきりにさせないための支援
- ◆健康な65歳をめざす → → 特定検診にて生活習慣病の早期発見と生活改善の支援
- ◆生活習慣の形成 → → → 幼少期からの健康教育の推進

【具体案として…】

1. 寝たきりにさせないための支援事業を活用する！

1) 介護予防教室への積極的な参加…【担当部署:福祉保健部・地域支援課】

・浦添市では、介護予防事業として2種類のプログラムがある

※心身の状態が気になる高齢者(特定高齢者)には！

- ① 生きいき貯金クラブ(筋力トレーニング)
- ② いまいゆクラブ(水中運動トレーニング)
- ③ たいそう教室(ピラティスインナーマッスルエクササイズ)
- ④ 歯がんじょう教室
- ⑤ めちくすい栄養改善教室
- ⑥ 結いゆい訪問

※参加費負担あり

※比較的元気な高齢者(一般高齢者)には！

- ① 生きいき健康クラブ
- ② 生きいき貯金クラブ(筋力トレーニング)
- ③ いまいゆクラブ(水中運動トレーニング)
- ④ たいそう教室(ピラティスインナーマッスルエクササイズ)
- ⑤ めちくすい栄養教室
- ⑥ 口腔ケア健康講話
- ⑦ 運動と栄養健康講話

※参加費負担あり



活動できる85歳をめざせる！

2. 特定健診にて生活習慣病の早期発見と生活改善の支援を行う！

1) 生活習慣病と社会保障費との関係を市民で共有する。

※浦添市の生産年齢(15～64歳)人口(※図2参照)が60%を占めていることや、
浦添市における65歳未満の死因別死亡状況が平成15年から平成18年を除き、

平成21年まで、自殺が上位であることから急務に取り組まなければ！

※総死亡数に対して4人に1人が65歳未満！！

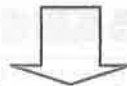
特に、糖尿病などによる死亡率……2005年沖縄県は全国一！

糖尿病予防により、一人当たり1,000万の社会保障費の節約になるほか、7年寿命が延びる。
～平成23年度南城市健康づくり推進大会にて、保健師の講話より抜粋～

2) 特定受診率の高かった自治会を表彰し、奨励金を授与する。

3) 夜間健診や日曜健診、出張健診を行う。

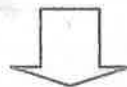
※南城市では、2)と3)の夜間健診を実施、県内市部の中では、受診率上位を守っている(42.5%)



退職後の心身の安定が引きこもりを防ぎ、健康な65歳を迎えられる！

3. 幼少期からの健康教育の推進！

- 1) 児童センターでの推進プログラムの確立と実施。
- 2) 保育・幼稚園の教師と保護者との連携を強化する。
- 3) 推進アドバイザーの養成。



健全な生活習慣が形成される！

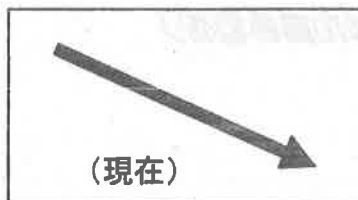
～心身の安定により学力もアップ！

活躍する子供達が増え、オリンピック選手も夢じゃない！

※以上のことが確実に実践し、ならびに浸透されると……

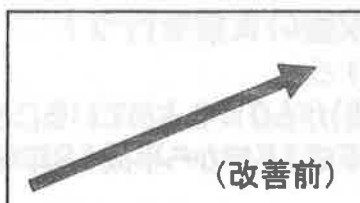
【浦添市の基金】

(図8)



【浦添市の生活習慣病患者】

(図9)



- ◎ 国保税の負担増なし！ ◎ 市民サービスの充実が期待される！
 (例)・健康手当金、市内施設の無料化 etc・・・
 =長寿男性日本一！奪回もありえるゾ！！=

～その2～ ・今後は成果を含めたスポーツの導入が求められる。

介護予防教室や各自治会で行われているスポーツ(ここでは、身体を動かすことは運動＝スポーツと見なす)は、参加者本人の身体機能がどれだけ向上したか、また、医療費にどれだけ反映されたかの、これまでのデータが取られていない現状に対して、これからは個人のデータを取り、本人と成果の喜びを共有しながらスポーツの導入を行っていく必要がある。

そのためには、医療費削減の数値目標を設定し、実現するための取り組み方を明確にしていかなければならない。
 レクのなスポーツからの脱却が求められている。

～その3～ ・てだこ市民大学卒業生は「地域力」の担い手である。

浦添市における「地域力」を推進するためのキーワードは「人財」である。
 市民大学卒業生は、2年間学んだスキルを活かし、地域において健康福祉への理解を促し、真の健康福祉社会を構築するためのキーパーソンとして活動する事が求められる。

浦添市の各施設の充実さや、市内を5中学校区に分けた環境は、地域づくりとしての活動のしやすさ等、メリットが多々ある。地域のキーパーソンとして、行政や医師会の健康情報をいち早く地域住民へ伝え、官・民・地域一体となった“てだこの街”を作っていこう。

(例)アンチエイジング浦添モデル事業 (浦添市医師会が2011年度版を策定)
 ≡若々しい体を保つための、禅の呼吸法によるトレーニングや、トトロになるまでかむ食事法などを提唱し、市民が健康を保つための“こつ”を紹介している＝

○自治会での夜の会合を・・・

アルコール類を→→→ サラダに！ かみかみ！
 最後は！腹式呼吸で！早々解散！

4. おわりに

2011年3月11日の東日本震災後から「絆」という言葉がよく使われるようになった。

しかし、現状はそうはいかない方向へむかっているような気がしてならない。

「絆」を復活させるためには、教育の場である学校に地域の人々全体が関わっていくことによって、地域社会の絆が結び直されると指摘している記事が目に入った。

2012年1月31日沖縄タイムス、琉球大学教授 島袋 純氏の記事である。

教授が提案した「地域運営学校」(別紙添付資料2参照)とは、文部科学省が推進している保護者や地域住民が公立小中高校などの運営に直接参加するコミュニティー・スクールのこと

で、県内ではまだ実施されていない。

市民大学卒業生が地域のキーパーソンとなり、行政とともに学校現場に協力していく地域運営学校を行政と共に協力し、県内初の取り組みとして浦添市が行なうことにより、さらなる地域の活性化や子供達の生きる意欲に繋がれば、2年間の学びは私達の予想を遙かに超えた、尊い人財教育だったといえる。

5、参考文献・添付資料

- ①統計うらそえ 平成22年度版
- ②健康うらそえ21
- ③健康うらそえ21～中間みなおし～
- ④てだこ市民大学講座資料(平成23年9月1日 講座名:健康うらそえ21について)
- ⑤広報うらそえ《2001年(平成13年)～2011年(平成23年)》
- ⑥浦添市議会議事録《平成22年3月第152回市議会(定例会)》
- ⑦てだこ・結プラン
- ⑧平成22年度行政区別医療費年度別・月別比較合計(国保加入者のみ) ※添付資料1
- ⑨沖縄タイムス記事(平成24年1月31日付) ※添付資料2 別紙

【添付資料1】平成22年度行政区別医療費(国民健康保険加入者のみ)

行政区	世帯数	被保険者数	件数	日数	費用額	1件あたり 費用額	1日あたり 費用額	1人あたり 費用額
浦添中学校区	3,690	7,508	95,390	186,035	2,142,283,396	22,458	11,515	285,324
浦西中学校区	2,084	4,317	50,691	93,835	1,007,251,031	19,870	10,734	233,304
神森中学校区	4,126	8,270	97,431	182,144	2,034,681,150	20,883	11,171	246,044
仲西中学校区	4,680	9,090	106,050	195,136	2,094,779,695	19,753	10,735	230,438
港川中学校区	3,592	7,250	86,899	164,192	1,834,339,767	21,109	11,172	253,021
その他	94	126	3,035	7,786	125,309,670	41,288	16,094	995,838
合 計	18,266	36,561	439,496	829,128	9,238,644,709	21,021	11,143	252,691

《行政区名》

浦添中学校区: 仲間・安波茶・経塚・前田・大平・茶山団地・ニュータウン・グリーンハイツ・公務員宿舎・浦添ハイツ・県営経塚
 浦西中学校区: 西原1区・西原2区・当山・広栄・浦西・安川団地・当山ハイツ・陽迎橋
 神森中学校区: 小湾・勢理客・内間・沢岨・神森・県営沢岨
 仲西中学校区: 城間・屋富祖・宮城・仲西・浅野浦
 港川中学校区: 伊祖・牧港・港川・緑ヶ丘・浦城・牧港ハイツ・港川ハイツ・港川崎原・上野・マチナタウン・浦添市市街地
 その他: キャンプキンザー・住所地特例・その他

6、謝 辞

今回の卒業研究をまとめるにあたり、各種資料を提供下さいました行政各部署、ならびにご指導賜りました玉城学部長、てだこ市民大学事務局の皆様には心より感謝致しております。どうもありがとうございました。

2年間の学びのなかで、浦添のすごさや、学ぶことの楽しさをあらためて認識することができました。また、世代を超えた学部仲間とすごす時間は、なによりも貴重な時間(縁)になりました。これからは、浦添市民として、さらに誇りを持ち、自分のことから少しずつ貢献していきたいと思います。

最後に、このてだこ市民大学で私を成長させて頂きました学長・学部長・講師の先生方・事務局の皆様・2期生の皆さんへ心よりお礼申し上げます。

2012



しきぐくろ・じゅん 1961年現
朝市生まれ。琉球大学教授。早稲田大
学大学院政治学研究所修了。政治学博
士（比較連邦制の研究）。著書に「リ
ージョナリズムの国際比較」など。

は、約40万人という未曽有の増大である。もちろんその主要因は、社会的な増加である。県内北部と煙臺の人口流る。統一企業の従業員としての移住者も多い。近年は、移住者の2位の出生による増加もある。

幻想 中緋のユイマール

昨年一年を要務する漢字に「絆」が選ばれ、人と人とが信頼を築きつてつながり合うことの必要性が痛切に叫ばれる時代となった。沖縄では神話のまに「ユイマル」の物語が流布している。実相とはどのようなか、という。地獄社会とのつながりや縁を持たない、社会から排除された多くの人々が存在している「無縁社会」に近い。

人口増の受け皿

1972年の復興から40年
間、人口は大きく流動してい
る。特に中南部地域の人口増

出、企業進出や公務関係の拡大による本土から移住者の増大である。薩島や北部においては観光業や一次産業、伝

生者として移住する世にたいして、環境以外の、地味な金とのつながりには、どのようにつながれてきているのだろうかという疑問を抱きながら、答えを待たずに、おれが「まー」できていない」としうが、いいよがな。

それがまた分るのは次の4点である。①自治会や大衆の発起で、「潮友会」の形骸化のNPO等由民間財団体の設立のPFA防犯の体制と、地味な金として学校資金に活用されている。②主体的に「まー」が、それをまですみてみたのか、それをまですみてみたのか。

隔絶される住民

まず、自治会への加入率の概略な低下を説明したい。例へば、政令指定都市の岡山市で、その80%近くの市平均加入率であり、西日本では一般に都市部でも高い。しかし、那覇市の加入率は20%程度であるが、中核地域においては多くの市町村が40%前後になっている。

近代以前から存在する伝統的な集落の自治会において、は、其連の祖先をまつる神事

代では、子ども会、青年会、女性会、老人会等の地域の社会教育関係団体の母体となる組織であり、これによって子ども会や児童や福祉を担い、さらには防犯機能を兼ねていく場合もある。また、NPO型第三の機能や舞臺内の美化や公共財産の保全などを担っていく。その事業の作る側にも受ける側にも関われない場合、地域社会から隔離した状況に陥る。

世に間にあつたことを喜び、相互扶助機能に關することはほとんどない。近年の移住者もそれとない。近きべきでない。

「地域運営学校」

第3に、そのような非常に多くの自治会や郷友会に關われない者について、いわゆる「新しい公共」といわれる市民的な活動団体への参加が求められるが、それと十分である。これらは特に現代的な新しい機能、使命を絞つた

や教師が生かすのは教育に協力し、学校の地域社会学習等に参加する機会を設けている。保護者や学校が地域づくりに主体的に参画し出すと同時に、保護者が教育だけ関与するのは、地域の人々全体が学際教育に主体的に関わっていることによつて、地域社会の精神が育ち直せるとされるのである。その例として、各自治体教育委員会がそれぞれ、おり、沖縄では、まさに二つもない。無縁社会は、努力方向として、上ごうか子育、そのものさき、安全や安心し、住む社会は、人々々の絆を土台としており、今我々の住む地域は、それぞれ、遠い社会である。私たちがそこに問題意識をもたなければならぬ。

を産する住民が、社会に参加する機会の門をくぐれないという。共有財産、特に農用地、燃料の収入がある古い自治会には、無関係に反対する気配の時分、国からかみ入りの形が極めて多い。

第2に、難関や北都からの移住者が都市圏で公開されてきたのは、出身地で行政改革される郵友会であったが、それをも形勢化している。とくに、若い中小中校を出た仲間、先達後輩の仲は非常によく、故郷を離れて都市圏に

社会の伝統的規範に基いた全般的な生活指針・扶助の役割を果たすこともない。その役割を果す手段でもない。

市場では他商品と比べ、需要も少なく、いまだに公共的財・公共品に対する行政との密着な関係と、消費者といふ行政の下位・下位機関として、行政の下に置かれていない場合が多く、これを打破するための制度や政策も十分とはいえない。当分にも郵政会にも追加しない。NPO等に属する大企業の例が出現している。

合い会合をもち、相互扶助機能をもたしていた。故郷から新たに出てくるものによつては、仮の宿を提供し、学業を支援する、就職先を世話するなどと、面倒をみる、援助関係が確立の場所を移しての延長のような面があつた。

しかし、移住者が高齢化したとき同時に、移住の世帯が、

界を打破する。此でも聞われる地域の分断感として、子育てや教育が注目され、そのための地域自治組織が構築されていく例が多い。「地域超群学校」のように、学校区ごと、地域自治組織が構成される学校運営の責任をもつ主体となる仕組みである。多くの場合、地域づくりに関わる生涯学習の市民講座を設け、その講師



卒業研究

学部名：文化振興・教養学部

氏名：福里律子・宮北知佳

1. テーマ

浦添市観光と地域の活性化を目指して
～街の駅(案内所)構想・地域ポータルサイト運営を通して～

2. テーマ設定理由

浦添は、国の史跡に指定されている『浦添城跡』や王陵である『浦添ようどれ』等の史跡が数多く点在している。又、琉球漆器専門の「美術館」、2010年ユネスコ無形文化財に指定された『組踊り』ゆかりの『国立劇場おきなわ』や「てだこホール」等の芸能・文化施設、浦添市が誇る和太鼓集団『鼓衆若太陽』などの芸能エンターティエメント、各自治会などの指定無形文化財・伝統芸能なども数多くある。地域参加型イベント『てだこウォーク』や日本ウォーキング協会の「歩きたくなる 500 選」にも選ばれており、年中歩け、健康を維持できる資源もある。

しかし、県外の観光客は浦添を素通りする状況であり、他の地域にはない、浦添特有の深い歴史に裏打ちされたその魅力的な観光資源に触れる機会を創出できない状況である。

それらの情報を何とか一元化した『街の駅』構想は、地域の産業・特産品を紹介し、訪れる方への配慮と、導線を作ることで、この案内所で必要な情報・発信が大きな役割となり、浦添市の知名度アップにもつながっていく場になることは間違いないと考える。さらに、個々に点在する浦添市の魅力的な観光資源をつなぎ合わせた『観光ツアー商品』の開発及び情報発信を通して、一つの観光ツアー商品の創出等を実施し、浦添市の観光事業及び地域産業の活性化に寄与できるポータルサイトを運営したいと考えテーマを設定した。

3. 項立て

・はじめに・・・市民大学の理念と目的

1. 背景と事業目的

2. 事業概要

3. 事業実施イメージ

4. 事業内容

5. 事業執行体制・スタッフ業務体制

6. 事業スケジュール

7. まとめ(謝辞)

浦添市観光と地域の活性化を目指して

～街の駅(案内所)《構想》・地域ポータルサイト運営～

てだこ市民大学文化振興・教養学部

福里律子

宮北知佳

1

市民大学の理念と目的

本市の「夢・まち・人」づくりの一環として、市民の学習ニーズの高度化・多様化への対応と学ぶ喜びの促進、自己実現への支援を行うとともに、そこでの学習成果を地域社会や学校教育等に還元し、本市のまちづくりに寄与できる有為な人材を育成することを目的とする

・地域のキーパーソン育成を目指す

・地域での様々なイベントに参加する「地域参加活動」という科目がある

☺ コミュニティビジネス・地域振興学部

☺ 健康福祉・スポーツ振興学部

☺ 文化振興・教養学部

☺ 地域・学校支援コーディネーター養成学部

1. 背景と事業目的

初期(古)琉球王国の中心であった浦添は、国の史跡に指定されている『浦添城跡』や王陵である『浦添ようどれ』また、色彩が鮮やかな琉球漆器専門の「美術館」など琉球歴史のロマンを掻き立てる史跡などが多く点在しています。

また2010年ユネスコ無形文化財に指定された『組踊り』ゆかりの『国立劇場おきなわ』や「てだこホール」などの芸能・文化施設。

浦添市が誇る和太鼓集団『鼓衆若太陽』などの芸能エンターテインメント、各自治会などの指定無形文化財・伝統芸能など。

地域参加型イベント『てだこウォーク』や、スポーツ部門では、プロ野球「ヤクルト」キャンプ等や、日本ウォーキング協会の「歩きたくなる500選」にも浦添は選ばれており、年中歩け、健康を維持できる面の役割も重要です。

このように個々では大変魅力的な観光資源が多数存在しています。

しかしながら、よく言われるビーチや大型のホテル等が無いために県外の観光客は浦添を素通りする状況であり、他の地域にはない、浦添特有の深い歴史に裏打ちされたその魅力的な観光資源に触れる機会を創出できない状況です。

何度も沖縄観光に訪れる県外のリピーターの方々にとって浦添の史跡等は、首里城や美ら海水族館とは違う古琉球に思いを馳せる魅力的な場所です。

それらの情報を何とか一元化し『街の駅』構想は、地域の産業・特産品を紹介し、訪れる方への配慮と、導線を作ることで、この案内所で必要な情報・発信が大きな役割となり、浦添市の知名度アップにもつながっていく場になることは間違いないでしょう。

時代の変化を見据えて、各自治会・公民館などにPCを設置・ネット環境整備、ブログ配信・Wi-Fiスポットとして、若い世代の呼び戻しの狙いと、また地域ポータルサイト開設により、官民一体で浦添市民による情報発信にて、日々の浦添の魅力を内外に伝えることが出来ます。

出来ない理由として「大型ホテル」がない！と言う固定観念にとらわれず、長期滞在型(ロングスティ)やホームスティを提案し、マンスリーマンション等の情報を収集し発信し、医療や福祉面から、地域の活動や生活に役立つ「暮らしマップ」を製作し、活用することで、増加傾向の定年層や、冬季間の農家、今後増えている外国人などをターゲットに、様々なリサーチをし、浦添市の暮らしやすさを積極的にアピールすることで、自分達の暮らしよい浦添市を大きく伝えていくチャンスと考えられます。

『観光ツアー商品』の開発及び情報発信、観光マーケティングの専属スタッフを雇用し、個々に点在する浦添市の魅力的な観光資源をつなぎ合わせ、一つの観光ツアー商品の創出等を実施し、キャンプキンザー跡地利用を見据えた浦添市の観光事業及び地域産業の活性化に寄与します。

3

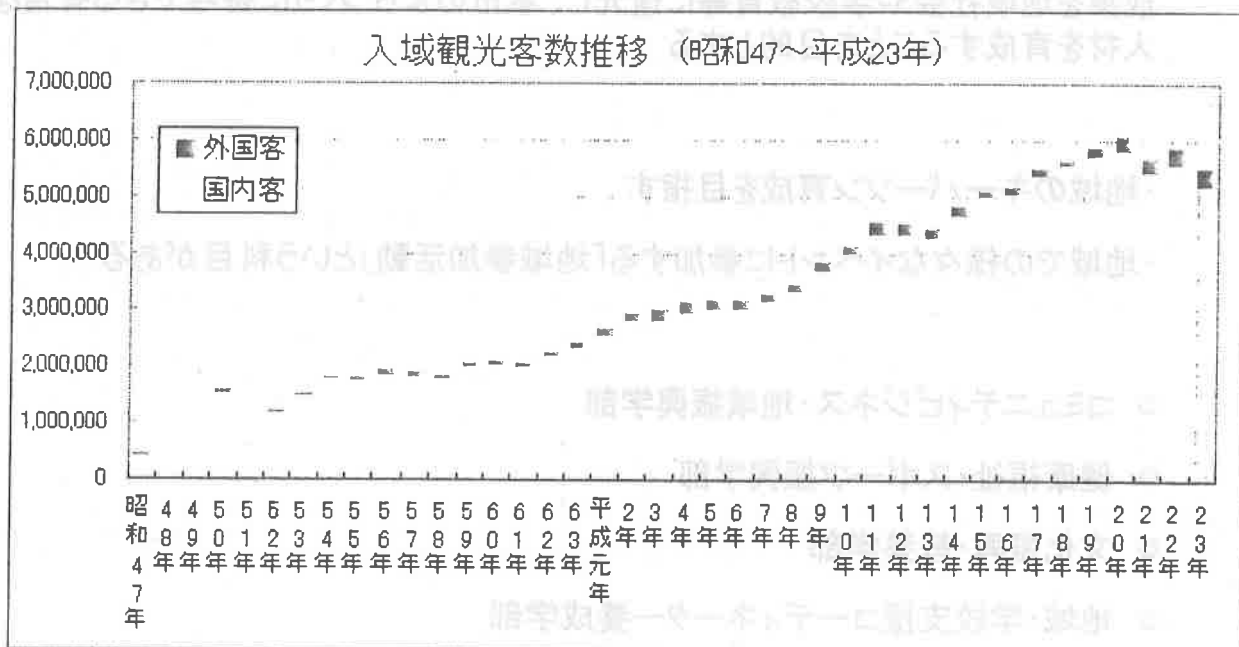
平成23年（2011年）入域観光客数概況

平成23年の入域観光客数は547万9,100人。

前年実績を6.4%（37万6,000人）下回った。

国内観光客数は6.7%（31万1,300人）減の519万9,100人。

外国人観光客数は1.7%（1,700人）減の28万人となった。



sumuka ~スムカ~
delightfully furnished in original

沖縄マンスリー&ウィークリーマンション

ご予約・お問い合わせ①

☎098-865-5525



- ウィークリー料金表 1週間(7泊8日)
2名様~8名様ご利用家賃¥56,000~¥74,000
- 光熱費(電気、水道、ガス)¥800/日クリーニング費
¥15,000~¥20,000事務手数料¥2,100
- ※シーズン期間中ご利用の方適用
(4/28~5/5、7/14~8/31、12/24~1/5)
- 保証金¥10,000駐車場¥500/日
- マンスリー料金表 1ヶ月
2名様~8名様ご利用家賃¥137,000~¥167,000
- 光熱費水道・ガス¥10,000/月~¥28,000/月
電気代別途支払クリーニング費¥16,000~¥28,000
- 事務手数料¥10,500保証金¥50,000~¥60,000
- 駐車場¥10,000/月

沖縄県浦添市大平2丁目20-1

ウィークリーマンション&マンスリーマンションSUMUKA(浦添)

- ウィークリーマンション&マンスリーマンションSUMUKA(浦添) 印刷
ページを表示
- 都会の雑音や人込の中から、癒しを求めて来られた方必見です。
ホント静かな時間が過ごせると思います。
- 新都心のお隣(浦添市)
滞在期間中はのんびり過ごしてみても如何ですか!(^^)!
- 短期から長期までビジネスはもちろん就職・受験活動やプライベートで
も利用できます。
- 全室に家具・家電を完備し滞在中、不自由を感じることがありません。
生活に必要な備品を全て取り揃えていますので、トランクひとつで滞在
できます。
- 「出張経費の削減」、「受験活動の拠点」など様々な用途に合わせて利
用できます。
- 都会の雑音や人込の中から、癒しを求めて来られた方必見です。
ホント静かな時間が過ごせると思います。新都心のお隣(浦添市) 滞
在期間中はのんびり過ごしてみても如何ですか

〒901-2112

浦添市沢崎 889-1番地 ショーリセM (メッ

シュ番号: 29 18 A-5 a-4))

メッシュ番号について>

電話番号 098-865-5525

予約用電話番号 0120-491-943

FAX 098-868-5552

メールアドレス info@sumuka.jp

ホームページ URL http://sumuka.jp



5

《長・短期滞在型マンション》・ビッグウェーブ浦西

(〒901-2102)

沖縄県浦添市前田3丁目2-3-203

- 単身赴任、長期出張のビジネスマンの方へ
- 研修、受験する方への勉強部屋として
- 沖縄の観光、レジャーを目一杯楽しみたい方へ
- ご料金(シングル用)

■ 1週間単位: 22,000円(税込)より・
長期割引制度有(1日当3,142円(税込)(光熱費・保証料込)

☆全室家具

(ベッド・収納・テレビ・ビデオ・冷蔵庫・洗濯機)

☆台所用品

(電子レンジ・炊飯器・炊事用品・食器・洗面バス用品)

☆全室冷暖房完備・駐車場完備(浦西は1週間1,000円)

※長期用 15,000円 家電なしタイプ有



グランドシャトレ

〒901-2132

浦添市伊祖 5-8-12

■ (メッシュ番号: 26 99 A-2 e-
2) メッシュ番号について>

■ 電話番号098-979-9207

■ FAX098-979-9208

■ メールアドレスinfo@e-aiueo.jp

■ ホームページ

URLhttp://www.oki-johoce.com/

■ 予約用URLhttp://www.oki-

johoce.com/

■ 交通アクセス1那覇空港から 車

(一般道)で約 45分



シングル(ウィークリー7泊8日)24,500円
光熱費700円/日、駐車場500円/日

シングル(マンスリー)63,000円
光熱費550円/日、駐車場10,000円/月

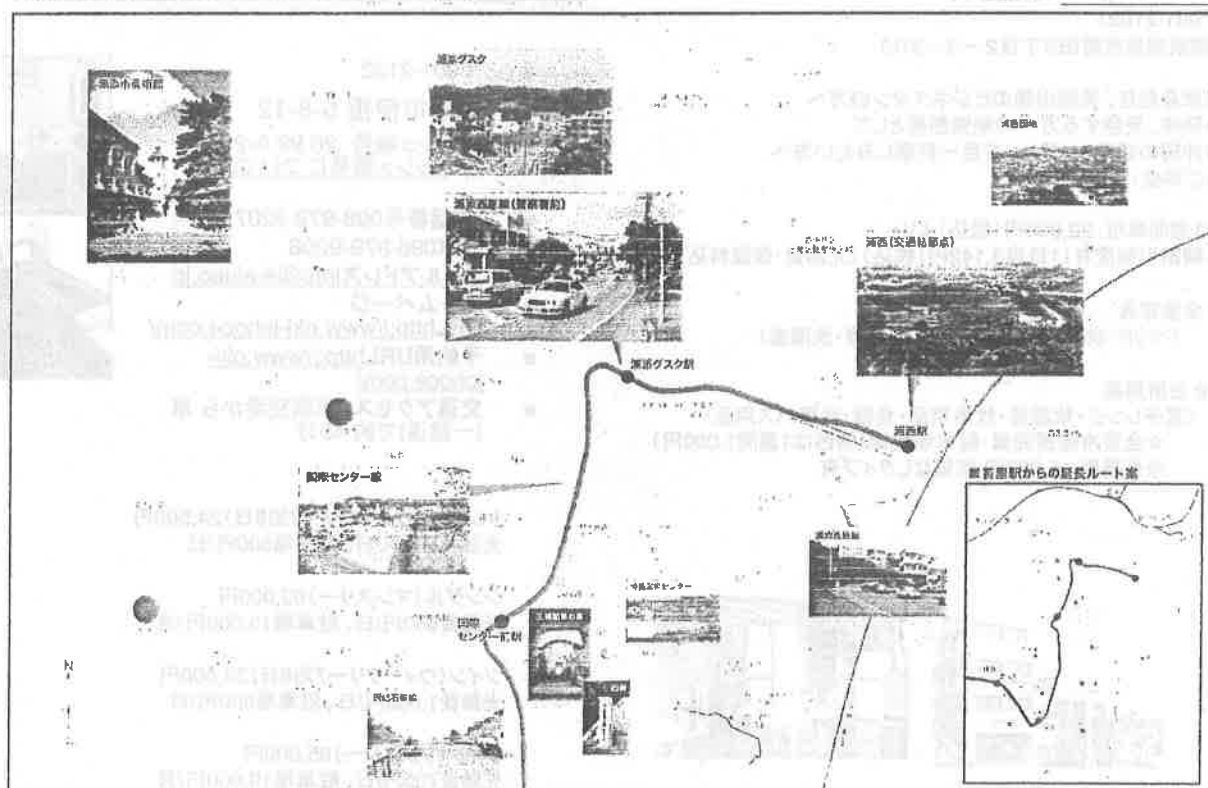
ツイン(ウィークリー7泊8日)33,000円
光熱費1,000円/日、駐車場500円/日

ツイン(マンスリー)85,000円
光熱費700円/日、駐車場10,000円/月
短期宿泊(1週間未満)お問合せ下さいませ。



浦添市HPより

沖縄都市モノレール延長・浦添ルート案



浦添市HPより



まちの駅は無料で休憩できるまちの案内所です。
 公共施設から個人商店まで、既存空間を利用し、地域情報を提供し、
 交流を促進させる場です。「おもてなし」の地域を目指し、これらの
 施設(場)をネットワークする取り組みが各地で進められています。



1. まちの駅とは……ひと・テーマ・まちをつなぐ拠点
2. まちの駅の効果…ネットワーク効果とイメージ
3. まちの駅の基本アイテム…必須アイテムとコーナーイメージ



「まちの駅」看板



トイレ・休憩場所



まちの案内人(常駐・兼務可)



まちの駅標準情報の提供
 (提供情報を10項目に統一化)



地図情報(周辺地域を含む)



地元の情報

………宿、特産品、遊び、ひと…



地元ならではの情報(ならではの情報)

(以下は最低限必要なもののプラス、
あるのが望ましいもの)



駐車場 自転車 駐車場



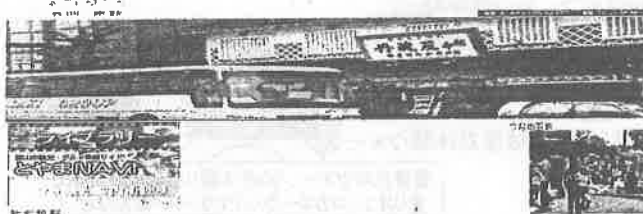
情報BOX
ラック



情報端末
etc…

富山観光創造会議

富山観光創造会議



2012年2月6日
 とやま街なかメディアステーション 2012年2月6日新聞掲載(読売新聞)

2012年2月7日
 第46回「街づくりサロン」にご案内
 ぐるっとグルメめぐりクーポン新聞掲載 2012年2月3日(北陸中日新聞)

2012年1月19日
 第46回「街づくりサロン」にご案内(PDF:172.0 KB)
 NPO法人富山観光創造会議案内更新(PDF:222.4 KB)
 まちの駅リスト更新。全25店舗(PDF:189.6 KB)

2012年1月13日
 市旗〜ユキ編〜 1月12日(木) 新聞掲載(朝日新聞)

2012年1月7日
 富山のコンシェルジュ 2011年11月28日 新聞掲載(日経新聞)
 とやま街なか〜ユキ編〜2/4(土) 参加者募集中

2011年10月19日
 NPO法人のためのパソコン講座Ⅰ
 Ⅱ 新着情報の一覧へ

環水公園でのフリーマーケット

- ・新着情報
- ・観光創造会議とは?
- ・館会活動案内
- ・まちの駅ネットワーク
- ・食料・定食
- ・イベントライブラリー
- ・お買い合わせ
- ・リンク集

富山観光創造会議事務局 〒930-0046 富山市堤町通り1-3-7 まちの駅ビル4F TEL (076)407-0521 FAX (076)407-0511
 Copyright (C)2012 Toyama Sightseeing Creating Conference, All Rights Reserved.

まちの駅ネットワーク

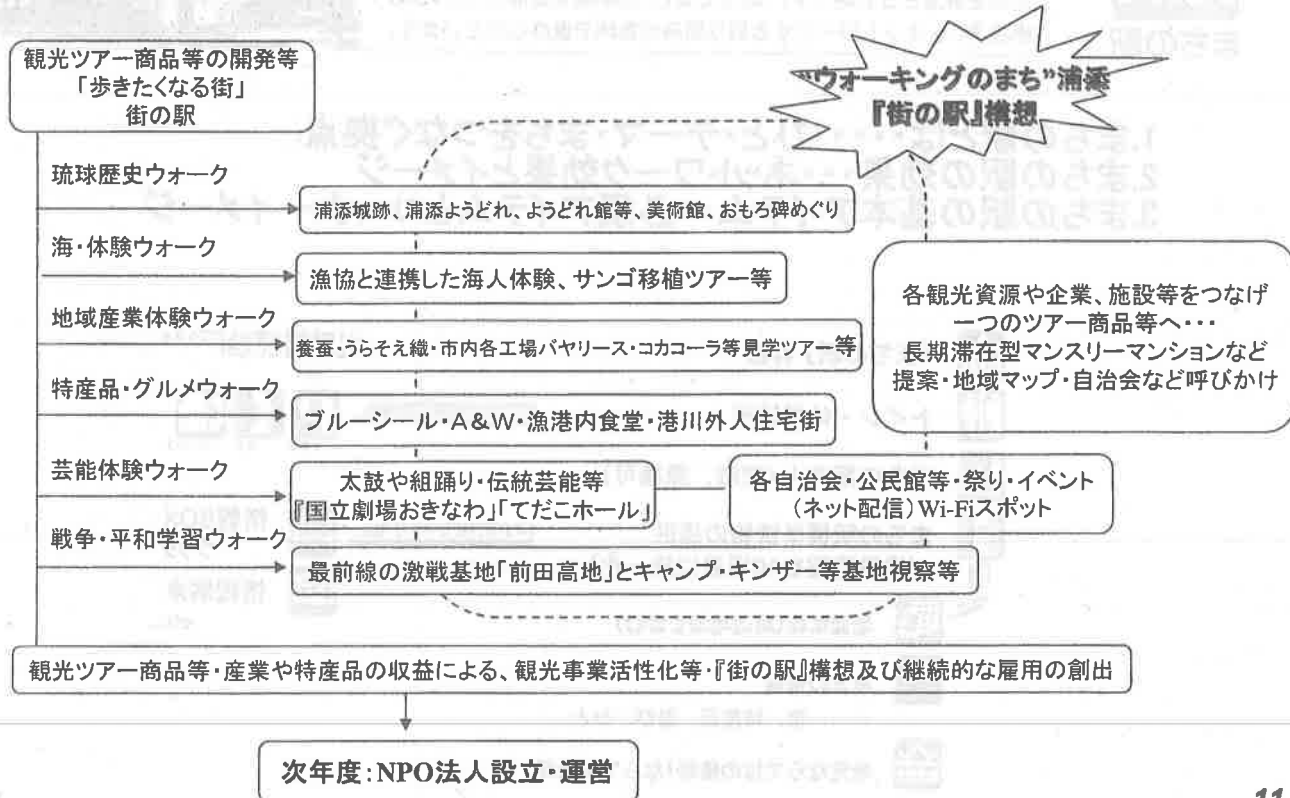
富山観光創造会議まちの駅リスト

No	駅名	店舗・団体名
1	地酒の駅	酒のとよた
2	アイスの駅	平野屋
3	はなの駅	花詩織り
4	パスタの駅	イタリア料理クオーレ
5	かまぼこの駅	(有)女の傳商会
6	きものの駅	㈱呉服の岡本
7	らーめんの駅	一平飯店
8	くすりの駅	㈱池田屋の安兵衛商店
9	おさんぽの駅	いこい・にぎわい和が家
10	ます寿司の駅	(有)味の笹義(こころ)

2. 事業概要

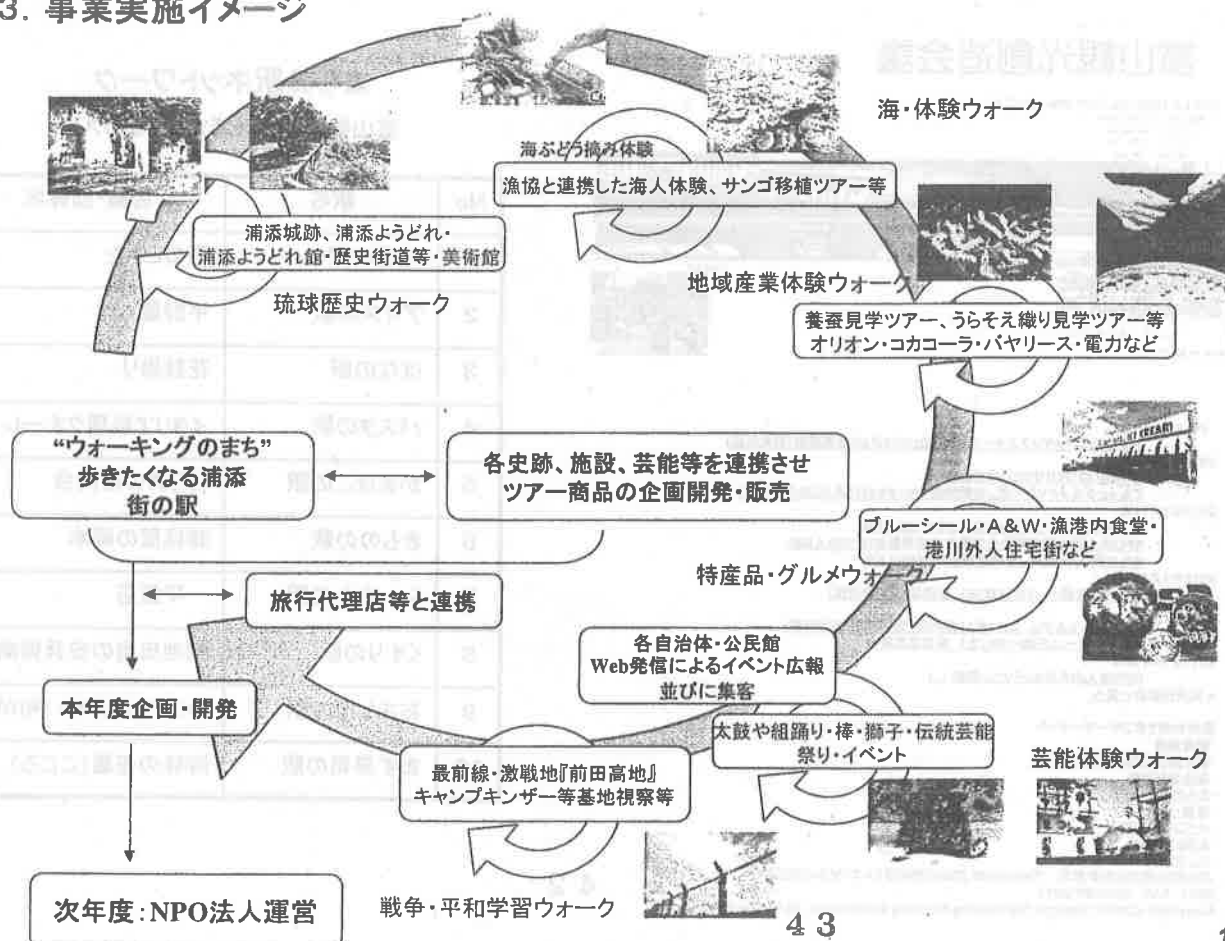
■ 事業目的

『観光ツアー商品』の開発及び情報発信、観光マーケティングの専属スタッフを雇用し、個々に点在する浦添市の魅力的な観光資源をつなぎ合わせ、一つの観光ツアー商品の創出等を実施し、浦添市の観光事業及び地域産業の活性化に寄与します。



11

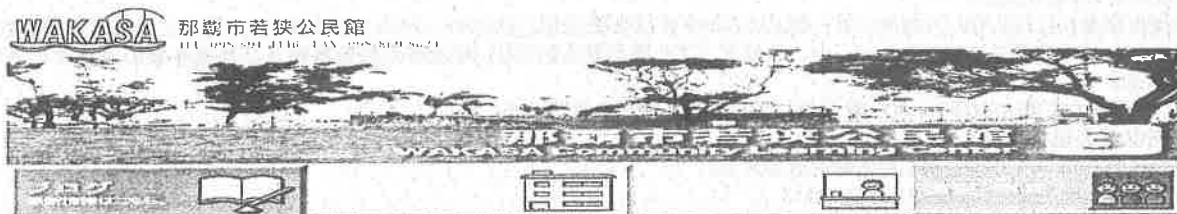
3. 事業実施イメージ



43

12

若狭公民館



ニュースピックアップ

若狭公民館の名物(?)企画「100人でだるまさんがころんだ」を実施します。3年前から不定期に行っているイベントですが、いよいよ今回が最後となります。より多くの方にご参加いただき、みんなで一緒に楽しみましょう。
■日時:3月3日(土)10時半~12時半
(受付開始:10時)
■場所:若狭海浜公園南側緑地(波の上ビーチとなり)



<http://wpark.tl-da.net>

- 2012.03.02 トップページの画像を更新しました。3月は「若狭海浜公園FINAL」です。
シンポジウム「平等と自立を手に入れるために」の案内をアップしました。
- 2012.02.02 トップページの画像を更新しました。2月は「松山公園の梅の木」です。
「100人でだるまさんがころんだ ファイナル!!」の案内をアップしました。
- 2012.01.27 「第20回若狭公民館まつり」の案内をアップしました。
- 2012.01.16 成人協賛「=復讐あの日を知る= 互恵で知る! 激動の時代」の案内をアップしました。
- 2012.01.06 広報わかさNo.73 (PDF) をアップしました。
- 2012.01.04 トップページの画像を更新しました。1月は「波上宮初詣」です。
乳幼児学級「Happy ママ、キッズクラブ」の案内をアップしました。

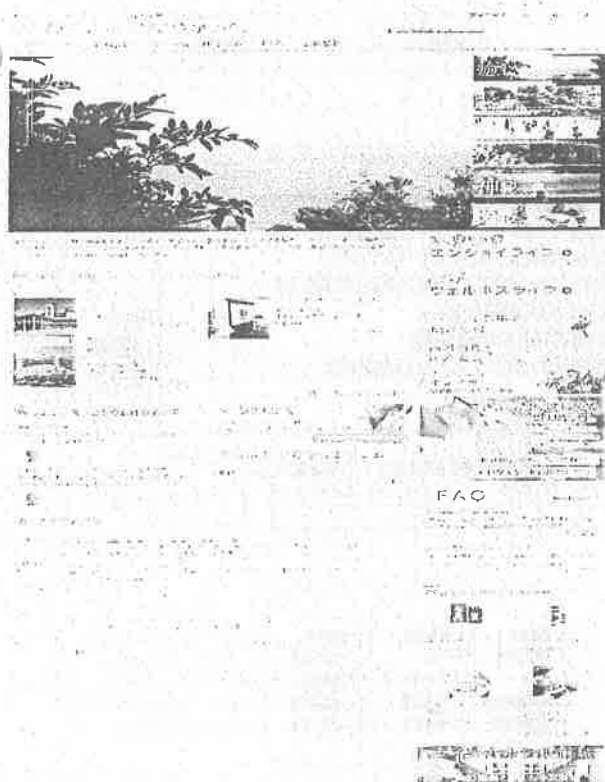


「第20回若狭公民館まつり」

公民館定期利用団体が一年間の学習を発表する場であると同時に、地域の皆さんが楽しいことのできるお祭りです。
■2月18日(土)展示発表、喫茶コーナー、親子で作ろう!お菓子のお家、オープニング、バザー、体験教室、音楽演奏のタベ
■2月19日(日)舞台発表、展示発表、出店、喫茶コーナー、無料健康相談
■2月25日(土)社交ダンスパーティー

13

南城市地域ポータルサイト



浦添市『地域ポータルサイト』イメージ



浦添の「なま」を知る!
浦添在住ブロッガーさんの情報発信基地

浦添市の
ブロッガーに
登録しよう!



イベント
情報

浦添40地区から魅力発見!

港川の
カフェ
特集

浦添の魅力を感じ
させるトップデザイン

浦添の情報発信隊
を結成するブロッガー
登録

市民発信型の
イベント情報掲示板

定期的の特集を組み、
40地域の各ブロック
の魅力を集約させる

40地区のブログ
発信!

4. 事業内容

(1) 新規失業者5名の雇用

新規失業者5名を雇用し、『観光ツアー商品』の開発及び情報発信、観光マーケティングを実施し、個々に点在する浦添市の魅力的な観光資源をつなぎ合わせ、一つの観光ツアー商品等を創出し、浦添市の観光事業及び地域産業の活性化に寄与する。

【募集方法】

ハローワークに求人申込を行い、求職者に対して求人情報を発信する。

【雇用対象者の選定基準】

次の何れかのスキル等を有した人材を選定する。

- ・浦添市の歴史と観光に関心と知識を有した人
- ・観光業・旅行業・営業経験を有した人
- ・ワード、エクセル、パワーポイント等基本的なソフトを活用し、事務処理及び経理・総務経験者
- ・外国語が出きる人

(2) 浦添観光ツアー商品の開発等

市内史跡めぐり、戦跡・平和学習・海人体験ツアー等の商品開発や開発に伴って生じる企業等との調整、交渉の業務。産業施設見学や各自治会・公民館とのイベント・祭り・調整・交渉の業務。

(3) 旅行代理店等への企画営業

ツアー商品の開発と併せて、旅行代理店等へ企画営業をして連携を図る。

(4) Webサイトの開設及び運営

観光ツアー専門のWebサイトを開設し、ネットでの情報発信と情報収集、Webマーケティング等を実施する。

浦添市のPRや観光に関連する業務。

各自治会、公民館へのパソコン設置並びにネット環境の整備Wi-Fiスポット化・各所のブログ配信、地域ポータルサイトの作成。

(5) 観光マーケティングの実施

県外観光客や修学旅行等への調査、集客に伴う売れるツアー商品開発に係る一連のマーケティングを実施する。

北国向け冬季間の長期滞在型のロングステイに欠かせない生活情報の収集、マップ製作と提案。

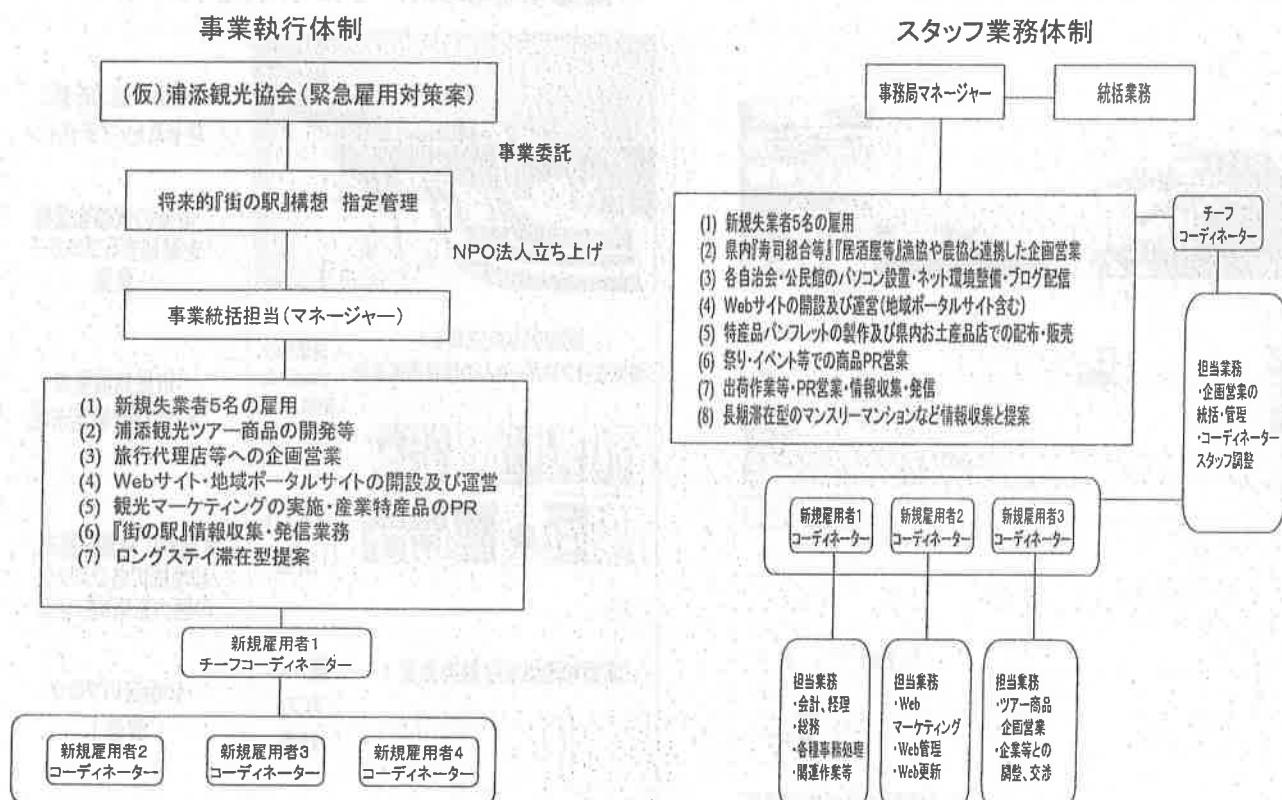
JACA浦添と連携し、外国人向けホームステイ先の情報収集と発信。

(6) 今後増える外国人向け、各種語学対応した「メニュー作り・マップ等」作成。

(7) 『街の駅』構想を目指し、情報収集と発信等、開設へ向けての準備

15

5. 事業執行体制・スタッフ業務体制

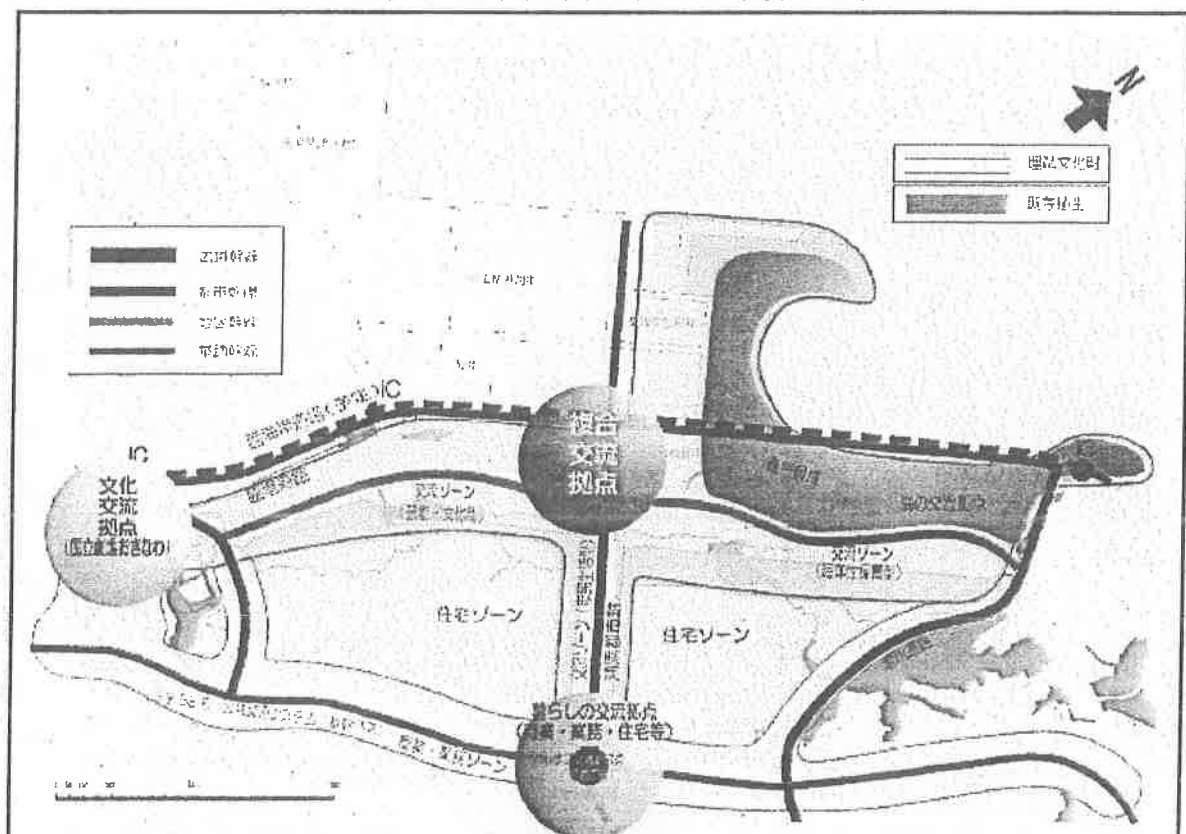


6. 事業スケジュール(案)

事業スケジュール概要(案)												
項 目	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
新規雇用者採用	← 求人・採用 →											
ツアー場所の調査	← →											
ツアー商品開発・企画		← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →
各連携企業等営業		← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →
ポスター・パンフ等発注	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →
旅行代理店等との連携等			← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →
Webサイト開設	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →	← →
祭り・イベントPR				← → 産業祭り	← → 花と食のフェスティバル							
各自治会・公民館 PC設置ネット環境整備 ブログ配信 地域ポータルサイト開設 『街の駅』構想準備	← → 運用管理 →											

17

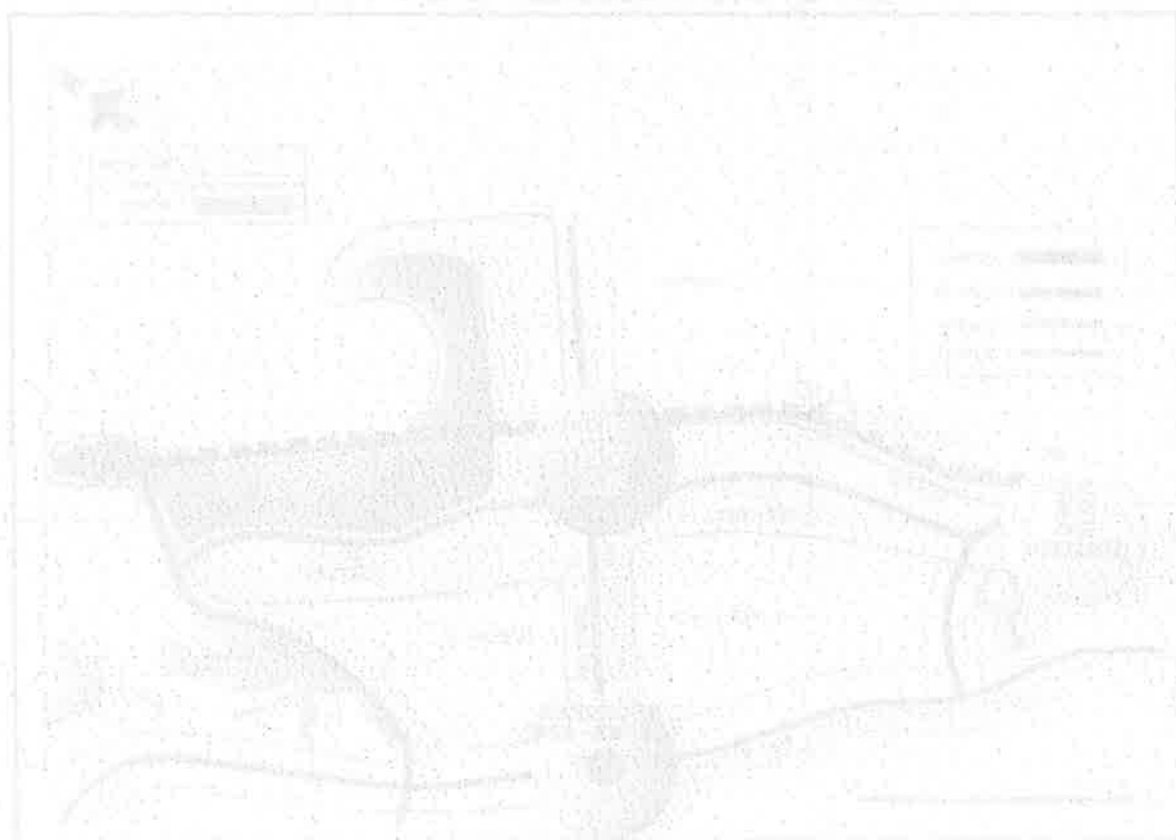
図表. 土地利用計画図(方向性(案))



7. まとめ(謝辞)

てだこ市民大学
文化振興・教養学部
福里律子・宮北知佳

最後までご清聴ありがとうございました！





卒業研究

学部名： 文化振興 教養 学部

氏 名： 宮城 重哲

1. テーマ

沖縄戦最大の激戦地、浦添の戦闘35日間と
仲間区民がどのような行動をとったのか

2. テーマ設定理由

私は沖縄戦米軍上陸の昭和20年4月1日から6月23日までの戦闘期間80余日間の中で宜野湾嘉数での戦闘から首里戦線までの35日間の浦添での戦闘の足跡を追ってみることにした。

それは私が浦添で生を受けた時に戦争が始まり、4歳の時に沖縄での戦争が始まり終戦までの間、実に多くの人命が失われた（私の両親、姉も亡くなった）ことが残念でならないことからテーマとして設定することとした。

3. 項立て（概要でも良い）

1. はじめに
2. 米軍が沖縄上陸する前の住民の様子
3. 米軍沖縄上陸4月1日から7日までの様子
4. 米軍の浦添での4月8日から5月12日頃までの嘉数高地、浦添村断崖（前田高地）での戦闘及び住民の様子
5. 戦後復興の様子
6. 検討課題
7. おわりに
8. 参考文献、資料

1. はじめに

「史跡めぐりと地域の再発見」の講座の中で現地を歩きながら地域マップを作成する際、講師の仲間先生から浦添城跡南斜面に戦跡の壕群として陣地壕があることを聞かされた。そのことがずっと念頭にあり研究レポートとして浦添での戦いをテーマとすることにした。

2. 米軍が沖縄上陸する前の住民の様子

昭和 19 年頃から軍から退避壕掘りの命令があり、また、陣地構築、防空壕掘りなどに駆り出されるなど戦時体制が構築される一方で、老婦女子や学童など疎開が行われていた。そんな中、疎開船が爆撃を受け沈没する事故が起き仲間出身の母・子の 2 人が犠牲となった。

その他に飛行場建設への動員、防衛隊などとして召集された。飛行場建設に関わった人は、遠くは八重山、伊江島、読谷、嘉手納、近くは仲西飛行場建設へと 1 カ月交代で労役に服したが、それは 1 日 11 時間の重労働で、食事も塩おにぎり 1 個とみそ汁 1 杯だけであった。

仲間地域でも八重山に徴用され建設作業から帰ってくる際の船が攻撃され 3 人が、また、南部の戦場では、防衛隊として動員された 10 人がそれぞれ犠牲となった。

昭和 19 年 3 月に始まった米軍空襲により、住民は浦添城跡近くにあるシーマヌヤマ壕や集落近くの壕に避難するなどした。当時の東シナ海は、海の色が見えなくなる程の米艦船に埋め尽くされ、実に不気味な状況であった。

住民は壕生活をする中、朝、夕、壕の外に出て炊事や水汲みに行くが、毎回のよう上空に小型偵察機が現われ、地上をくまなく偵察したあと猛烈な艦砲射撃で無差別に集中砲火を浴びせてくるため命がけであった。爆撃による戦死者、負傷者も多く出た。

昭和 19 年 10 月 10 日には十、十空襲と呼ばれる全島一斉空爆を受け、早朝から 5 次わたる無差別爆撃が 9 時間もの間、住民を恐怖に包みこんだ。那覇市は家屋の 9 割が焼失し、多くの住民は着の身着のままで飛び出し、中には北部に避難するためゾロゾロ素足で逃げ延びてきた人たちがいた。

仲間の婦人たちは、そうした人々に二ギリメシをつくってあげたりしていた。

3. 米軍沖縄上陸 4月1日から7日までの様子

昭和 20 年 4 月 1 日米軍は読谷村の渡具知海岸を中心に 200 隻近い軍艦から一斉に砲火。午前 8 時を期して水陸両用戦車により上陸、進撃を開始する。この時、日本軍の反撃もなく無血上陸と言われた。

米軍は、上陸開始後 1 日で早くも読谷、嘉手納両飛行場を占領した。4 月 7 日には首里第一防衛ラインといわれている宇地泊～我如古～上原～和宇慶の東西の線を結ぶ主陣地に対し、飛行機と中型大砲による猛烈な爆撃を加えたが、逆に日本軍の猛反撃にあい失敗する。

4. 米軍の浦添での 4 月 8 日から 5 月 12 日頃までの嘉数高地、浦添村断崖（前田高地）での戦闘及び住民の様子

まず浦添での戦闘が 35 日間要した点について、浦添の地形がどのようなになっているか考えてみることにした。

- ① 牧港河口に流れる宇地泊川と牧港川が上流で小峡谷となり樹木と雑木林に覆われた地形となっている。
- ② 嘉数高地、西原高地、墓石高地そして棚原断崖が東西に延びて宇地泊川に沿い遮蔽物となっている。
- ③ 嘉数集落の台地の西側から海岸に向かって傾斜し、大謝名集落から牧港にかけて水田と畑がデコボコの地形を作っている。
- ④ 浦添村断崖が北と南を分断するように険しい高地を形成し、東は前田から西は港川まで連なり、特に南面は緩やかに傾斜しているが北面は大部分が厳しい断崖となっている。
- ⑤ 仲間、安波茶から西側にかけて深い窪地となだらかな傾斜になっている。

このように浦添村全体が起伏の激しい特異な地形であった。

そのため日本軍は首里司令部の防御陣地として、これらの丘や断崖を利用して洞穴、壕、トーチカを効率的に連結するためにトンネルを掘り、地下陣地としての構築を始めた。

また、多くの墓が要塞として利用された。また、地の利を大いに活用し、丘の前の斜面と裏の斜面を要塞化し、大砲や迫撃砲を穴の中に設置し、防御体制の確立を図った。それが嘉数高地一帯、浦添村断崖の伊祖城址付近、前田高地と浦添城跡南斜面、そして下港川の孤立地帯と呼ばれた扇の要部分に見られた。

次に、4月8日からの嘉数丘陵地帯、浦添村断崖での戦闘と住民の動きを追ってみる。

この嘉数丘陵地帯での米軍の攻撃も艦船からの艦砲射撃と海軍戦闘機による爆撃を繰り返す中、日本軍も迫撃砲弾と機関銃弾、手榴弾、梱包爆撃によって攻撃する等一進一退の攻防が繰り返された。日本軍は真夜中に再度に渡って米軍の陣地めがけて侵入部隊となって戦闘を繰り返すなどした。しかし、夜間の戦闘において、米軍は海軍との連携により、照明弾を用いて隠れている日本兵を暴き、銃撃を加え、小隊を全滅に至らしめるなど、かえって日本軍は多くの戦死者を出すに至ったのである。

4月12日までの戦死者の数は、米軍450人余に対し、日本軍は約5,750人といわれた。4月14日には嘉数地域での戦闘はほぼ終えた。その後5日間、米軍は戦略の研究、調査をするとともに、兵士の休息にあてるなど4月19日以降の攻撃のための準備に入る。4月19日、米軍は「太平洋戦争かつて見たことのない沖縄戦作戦上最大」にして「日米最後の戦闘」としての一大集中砲火を全島に開始進撃する。特に浦添村断崖をはじめとする、棚原断崖、西原高地及び港川一帯には、海軍と海兵隊の飛行機により爆弾、ロケット弾、ナパーム弾が投下され、さらに戦艦、巡洋艦、駆逐艦など6隻の火力が加わるなど日本軍の前線に19,000発の砲弾を40分間にわたり浴びせた。

このような戦闘に見られるように米軍の重火器、兵器、弾薬装備類や戦艦等ありとあらゆる物量の多さに驚き、戦力の違いを見せつけられるのである。浦添村断崖、棚原断崖、西原高地ではドーサー装備戦車や火炎放射装甲車などが投入され、その威力をまざまざと見せつけられた。特に火炎放射装甲車により、洞穴の中の兵士をあぶり出し、焼き払い、吹き飛ばして殺害するなど4月19日から5月5日までの間に、日本軍の戦死者は実に6,234名を数えるなど米軍の戦死者のおよそ9倍に上った。その後、浦添村断崖での戦闘も実質的には、5月7日以降散発的な戦いの中、徐々に撤退することになる。

4月7日には、仲間一帯が非常事態となって軍から立ち退き命令が出されていたが、住民の多くは、集落近くの壕に各班毎に分散して入ったりしていた。しかし、戦闘の激化に伴い、4月21日から4月27日の夜半にかけて、米軍の照明弾が照らす中、どうせ死ぬなら自分の地域でと居座った老人、足腰の不自由な方等々が戦闘に巻き込まれ、助かった人たちは捕虜となり、多くの人たちが南部に逃げて行って戦死するなどした。

私の家族も南部に避難していたが、生まれ育った仲間地域に戻ろうとした途中、米軍の銃撃にあい、両親と姉を失い、当時まだ4歳の幼児だった私は死んだ母親におぶられている所を米軍に助けられた。収容所で偶然、捕虜となって収容されていた祖父と再会し、宜野湾野嵩収容所に入れられた後、祖父や従兄と一緒に仲間に戻ってきたのである。

5. 戦後復興の様子

昭和20年10月頃から村民の元の居住地への帰村が許され、敗戦後の混乱期の村づくりが始まる。村民が収容されていた各地区の収容所から村の幹部を集めて浦添への帰村運動を展開し、建設設営隊250人が組織された。隊長の比嘉資茂を先頭に設営隊は共同作業で荒廃した村の復興に取りかかった。住民の寝泊りを優先にテント小屋を城跡周辺及び現浦添小学校運動場周辺に作り、また、炊事班、食料を確保する班等住民が分担して作業にあたっていた。当時の仲間の居住区周辺には有刺鉄線が張り巡らされていたが、それは米軍による婦女子への暴行事件が度々発生していたため治安維持のための措置であった。

村民の仮の収容所の形をとる中でテント小屋づくりが片付きはじめ、仲間区民の人たちは集落内の片付けに着手するがその周辺には多くの遺骨も散乱し、自分の屋敷をすぐに探すこともできない状況であった。一段落後、昭和21年2月から4月頃までには各字へ移動し居住地への復帰となり、地元での生活が再びスタートすることになる。

6. 検討課題

浦添での戦闘記録については、戦争体験記録として浦添市史第5巻に掲載されているが、それがきちんと活用されなければ意味がないと考える。今後それをどのように将来子どもたちに戦争の歴史を伝えていけるのか、又、陣地壕群等が浦添城跡周辺にあり、城跡の整備と浦添城の復元と合わせて市の観光資源としての活用ができないかどうか、今後の行政、民間の取り組みに注目したいと思う。

7. おわりに

浦添の戦闘について資料、文献、聞き取り調査をする中で、私自身今まで平和に生活してきて戦争について新聞や雑誌に掲載されている事に別に気に目を反らしてきたことに忸怩たるものがあり、今まで何をやってきたんだろうと、深く反省の念をいだきながら研究レポートを書くことができました。

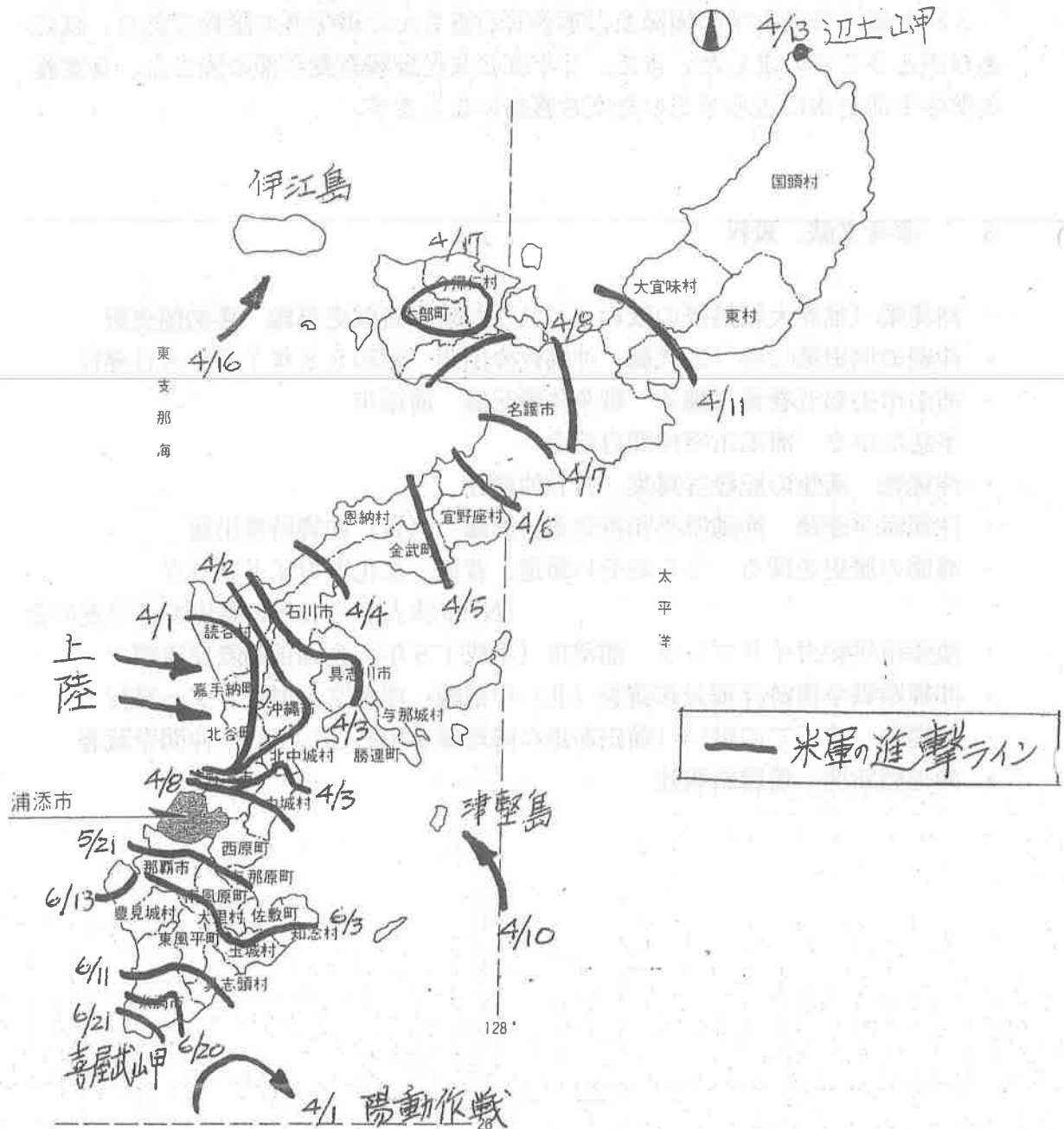
これも偏に市民大学の講師及び事務局の皆さんの御指導の賜物であり、誠にありがとうございました。また、2年次の文化振興教養学部 of 皆さん、有意義な学生生活を共に送らせていただき感謝いたします。

8. 参考文献、資料

- ・ 沖縄戦（世界大戦最後の戦い）アメリカ陸軍省戦史局編 喜納健勇訳
- ・ 沖縄の歴史第二巻 近代編 沖縄教育出版 昭和58年7月18日発行
- ・ 浦添市史第五巻資料編4 戦争体験記録 浦添市
- ・ 字誌なかま 浦添市字仲間自治会
- ・ 沖縄戦 衝撃の記録写真集 月刊沖縄社
- ・ 沖縄戦争遺跡 沖縄県平和祈念資料館編 （資）沖縄時事出版
- ・ 浦添の歴史を探る うらおそい新道、昔道 文化財ガイドブック
NPO 法人うらおそい歴史ガイド友の会
- ・ 浦添市平和ガイドブック 浦添市（平成18年）企画部国際交流課
- ・ 沖縄県戦争遺跡詳細分布調査（Ⅱ）中部編 埋蔵文化財センター発行
- ・ 沖縄戦 浦添での戦い（前田高地の陣地壕を中心として） 仲間孝蔵著
- ・ 沖縄戦新聞 琉球新報社

資料 1

沖縄戦の戦闘経緯



参考資料: 『沖縄県平和記念資料館』総合案内資料(5)

3
料
須





卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部
氏名：池原 千佳子

1. テーマ

「最協の地域・学校支援本部を立ち上げるために」

～友達100人作ろうプロジェクト～

2. テーマ設定理由

全国的に「学校支援本部」なるものが広がる中、日々超ローカルな活動を行う小学校PTA会長として「学校支援本部は本当に必要なのか?」「支援本部を配置する事によりPTA組織を衰退させないか」という疑念が個人的に付き纏っていた。

しかし、市民大学の講座を受けてきた2年間で様々な分野からの学びを経て脳内回路は方向転換、「最強ではない、最協の地域学校支援本部を立ち上げたい」と思うようになったことが、卒業研究テーマ設定に繋がった。

3. 項立て（概要でも良い）

- 1 はじめに
- 2 テーマ設定理由
- 3 本論
 - (1) 地域の現状
 - (2) PTA活動を通して
 - (3) 自治会活動を通して
 - (4) そして「てだこ市民大学」を通して
- 4 考察
 - (1) 最協の地域・学校支援本部組織について
 - (2) 必要なカテゴリー
 - (3) 構成員は
 - (4) コーディネーターとして
- 5 まとめ
- 6 謝辞

卒 業 研 究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部
氏 名：池原 千佳子

テーマ「最協の地域・学校支援本部を立ち上げるために」

～友達100人作ろうプロジェクト～

1 はじめに

てだこ市民大学に入学したきっかけは、小学校のPTA会長として、また、自治会の子ども育成会役員として、学校や地域と関わる中「地域や学校の為に出来ること、やるべきことはなんだろう。」と常々思案していたところ、「てだこ市民大学」が必然のように設立された。自治会卒推薦にて、夫が1期生として入学したため、1年満を持しての入学となった。

入学後市民大学で学んだ多くの事と、これまで活動してきた経験を常にリンクさせ描いてきた青写真を今回の卒業研究としてまとめる次第である。

2 テーマ設定の理由

全国的に「学校支援本部」なるものが広がりある中、日々超ローカルな活動を行う小学校PTA会長として「学校支援本部は本当に必要なのか?」「支援本部を配置する事によりPTA組織を衰退させないか」と言う疑念が個人的に付き纏っていた。しかし、市民大学の講座を受けてきた2年間で様々な分野からの学びを経て脳内回路は方向転換、「最強ではない、最協の地域学校支援本部を立ち上げたい」と思うようになったことが、卒業研究テーマ設定に繋がった。

3 本論

(1) 地域の現状

私が日頃活動の拠点としている仲西小学校は 屋富祖・宮城・仲西・大平の4地域(自治会)に住む世帯の子ども達が通っている。全世帯約520世帯中、屋富祖が4割、宮城が3割、大平2割、仲西1割 という児童配分である。

創立110年と言う歴史があるだけに、地元住民の学校に対する愛着・関心度は高く、「地域の子どもは地域で育てる」風紀が残る一方、保護者世代は夫婦共稼ぎがほとんどの他、家庭環境に支援が必要な児童も多く、学校運

営やPTA活動にも多くの困難があるのも事実である。街自体も、戦後軍雇用などで栄え、昭和40～50年代に最盛期だった屋富祖通り、城間通り、宮城大通りなどの商業地域からの衰退に伴い、人口減・世帯数減そして高齢化と、再振興に取り組む自治会活動も世代交代の時期を迎えている。

(2) PTA活動を通して

①PTA主催「地域ふれあい祭り」

4年前、仲西小学校のPTA会長に就いた当時「学校と地域」の繋がりがどの程度のものなのか、自治会子ども育成会役員として得た知識と情報しか持ち合わせていなかったため、正直把握ができていなかった。しかし、PTAでは毎年「地域ふれあい祭り」という校区内自治会を巻き込んだの祭りを開催していたため、その企画運営を自分がやる（やらなければならない）立場になった時が、振り返れば「地域・学校支援」のスタートであった。

「地域ふれあい」とは言っても、それまでの10回の祭りでは自治会との連絡方法・会議なども整備された状況ではなかった。そこで一念発起、新米会長は「古謝美佐子」ライブを目玉に4自治会役員をはじめ各自治会会員・児童・保護者を集めての「PTA・自治会共催による地域ふれあい祭り」を開催する事にした。

4自治会会長との「連絡協議会」は5月に開催し、その後各自治会へ出し物の依頼・調整を行うと共にPTAでは世話役の配置、部活動保護者会には出店の依頼、不足がちな飲食物提供の為に地元商店街の飲食店に出店依頼、そして目玉の「古謝美佐子さん」との打ち合わせ、児童とのコラボレーションへむけて学校との調整など約半年をかけて祭りを創り上げていった。

企画途中には「拡大会議」を行い、参加団体の全ての長が参会し祭りに向けての志気を高めることが出来た。校区内の4自治会・老人会・婦人会・育成会・青年会の熱気は地域力の厚さを感じる瞬間である。因みに参加団体・個人への謝礼は無し。全員が「おにぎり1個とお茶缶ひとつ」のみである。

「学校と地域を繋げたい」の想いに賛同してボランティア参加して下さった古謝美佐子さんの歌声が、皆の心を一つにしてくれたことは言うまでもない。それ以来「学校は地域のもの。学校は地域に育てられている」を常に念頭に活動している。

その後も「地域ふれあい祭り」は4自治会との共催にて継続している。

例年参加団体 23団体 来場人数約1000人

平成24年も開催予定



②祭りをとおして分かった地域連携とは・・

学校を拠点として地域を見ると、地域には永年学校への支援を続けていた人材がいることに気付いた。(例・祭りの発起人、これまでに関わったOB保護者、地域事業所など) 知りあう一人が、また一人、そしてまた一人・・と、個人から団体、企業と人が繋がる・広がることがわかった。

そこで、地域・学校支援者を増やしていくためにも。と考えたのが

友達100人作ろうプロジェクトの始まり

③そして人の広がりには更に・・

学校が欲している事業に対して、いつでも必要な人材を紹介できることが出来るようになった。また、保護者だけでは補えない支援活動に個人の繋がりが、自治会を通して協力依頼をする事が容易になってきた。



あいさつ運動



老人会の皆さんと



鉢植えの作業

(3) 自治会活動を通して

①自治会行事への参加

校区内の自治会イベントには出来るだけ参加して、その自治会ならではの特色を学ぶ。いいと思う事例は即、自分の自治会に持ちかえり小さいことから実践してみる。ここでもまた人が人を呼び

➡ 友達は何人に増えただろうか・・



慰霊祭



敬老会



自主防災訓練

②各自治会の特徴を学ぶ

それぞれの自治会の活動構成を良く知るにより、学校への支援依頼がスムーズになってきた。

- 例・Y 青年会には運動会やまつりでの健全育成巡視依頼
 M 婦人会には余興など
 O 老人会には挨拶運動や交通立哨
 N 育成会には慰霊祭への参加、夏休みのラジオ体操など



学校にはいつも
地域の皆さんが



地域人材を活用
琉舞指導を受ける



この笑顔で
学校は包まれる

(4) そして「てだこ市民大学」を通して・・・

①「うらそえ学」は素晴らしい

入学後秋前まで続く「うらそえ学」では、行政の役割、実績、そして関係機関との連携など、1 市民の立場で行政の全てを学べる機会であり、他に例を見ない講座である。総合計画・都市計画・福祉制度・教育委員会制度など、毎回の講座は自分の活動とのリンクを強化させてくれ、今後の目標計画の大きな指針となった。生涯学習の存在不可欠さを学んだ。

②「最強の学校支援本部」を学び

これまで危惧していた事は全て払拭された。

「地域支援本部はPTAが主体となるものではない」

「PTAの組織を壊すものでもない」

「お互いを尊重し合い、補い合うもの」 (森 弘達氏)

③「市民大学」で知り合った学友こそが・・・

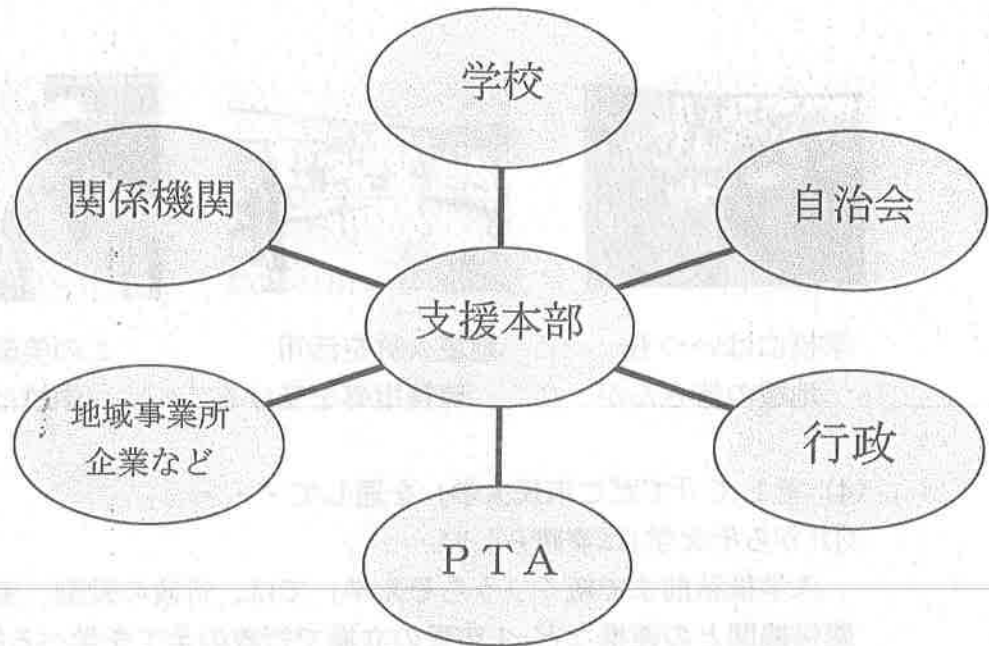
最高の人材として「My 人材バンク」へ仲間入り！

「最協の地域・学校支援本部を立ち上げよう！！」

※あえて最強ではない最協にした。決して強くなくても、私たちにできる事は「小さい目の前の支援。」それを人から人、グループへと力が積み重なることにより最も協力しあえる・協働のチームが出来ると確信している。

4 考察

(1)「最協の地域・学校支援本部」組織として



①支援本部が中心となり、学校からの要望をどこに持ち寄るか、どこからの人の支援が必要かを精査する。

②学校だけでなく、あるときは自治会からの、PTAからの支援要請に対しても対応できる本部とする。

③全ての支援が両輪として運営できるためには「行政」との連携も不可欠。

(2) 必要なカテゴリー

①学習支援部門（補習の手伝い・家庭科や英語・音楽などの専門性支援・プール指導・伝統芸能など）

②健全育成部門（不登校指導・交通安全指導・夜間街頭・家庭支援）

③環境整備部門（校舎の修繕・農園指導・飼育小屋ボランティア・蝶園整備・校内外の花の管理など）

④総合支援部門（異世代間交流、人権教育、キャリア教育、文化活動など）

以上のように大きく4つのカテゴリー（細部に渡ると25種類以上になる）

(3) 構成員は・・・

さあ！ここで登場 約5年かけて温めてきた

My 人材バンクの登場！！

友達100人作ろうプロジェクトの結果・・・現在マイ人材バンクに登録された大事な方たちは

①4自治会（屋富祖・宮城・大平・仲西）内の自治会長

老人会

婦人会

子ども育成会

青年会

②地域事業所（子ども110番登録者含む）など

30団体以上

③行政関係機関

10か所以上

④個人的支援に協力してくれる方 その数なんと・・・

150名を超えました！！

(4) コーディネーターとして

①学校（地域）から支援要請が来た時には、上記の人材バンクから適材適所で支援の要請・依頼にあたる。

②ボランティアは「出来る時に」が基本なので、第2・第3候補まで視野に入れて動く・

③支援を要求している側と、要求される側の「想い」を共有し、調整役に回る。

④支援した人材が「やってよかった」と充実感が得られる様に、「また声をかけて」と言ってくれるように配慮する。

⑤継続して支援してくれる団体・個人は 感謝状や表彰などの場に推挙する。

⑥次なる人材の発掘と、コーディネーター担い手を増やしていくこと。

5 まとめ

P T A主催の祭りがきっかけとなり、活動してきた「地域との関わり」「人との関わり」が、いつの間にか 学校や地域を支援していける組織作りの基盤となっていた。

これは、全て「てだこ市民大学」に入学したことによって構築されたものであると言って過言ではない。私たち1学生（市民）でもこうして2年間の学びを通して、自分にやれることを持ち寄ることによって「市民によるまちづくり」の一端になれることは、自信をもって卒業した後も活動を継続していく糧となるであろう。

そして、何よりも同じ想いを2年間共有し、支え合い、一緒に学んできた 家族の様な「地域・学校支援コーディネーター養成学部2期生」12名との出会い・存在は今回の卒業テーマ「最協の地域・学校支援本部」そのものである。



（親愛なる同期の皆さまたち）

6 謝辞

卒業研究には掲載できませんでしたが、2年間貴重な時間を私たちの為に「講座」をして下さった全ての講師陣の皆さま、その間の調整をして下さった事務局の皆さま、熱い想いで学生を激励して下さいここまで導いて下さった学部長、そして市民大学に関わる皆様に厚く御礼申し上げます。



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：地域・学校支援

コーディネーター養成 学部

氏名：大城 幸男

1. テーマ

自治会活動を通した、まちづくりと学校支援を考える

2. テーマ設定理由

大平自治会では、「まちづくり」の一環として小湾川上流、川沿に位置するあじさい公園周辺の環境を活かした緑化活動を実施している。それは、地域住民の共生意識と連帯感の高揚に繋がる活動として効果大である。加えて、「地域・家庭・学校」の連携を強化し、自治会活動の活性化を意図して、本テーマを設定した。

3. 項立て（概要でも良い）

はじめに

1. 自治会の概要

- 1) 自治会の目的
- 2) 自治会の現状と課題

2. 浦添市のまちづくり

- 1) 基本構想
- 2) 浦添市景観まちづくり計画
- 3) まちづくりの実践活動

3. 学校支援

- 1) 子どもの現状
- 2) 学校・親の現状
- 3) 学校の現状
- 4) 地域の現状
- 5) 小学校を「核」とした学校・家庭・地域の連携
 - ①学校にとっての効果
 - ②家庭（親）・地域にとっての効果
- 6) 学校・家庭・地域をつなぐ「コーディネーター」の配置
- 7) 浦添市学校支援本部事業について
 - ①国県事業の概要
 - ②浦添市における学校支援地域本部事業
 - ③学校支援事業要領（案）作成例

4. まとめ

5. 謝辞

6. 参考資料

はじめに

よく耳にする言葉に、地域はあるが社会がないと言う事を聞く。こんな状況下において大切なことは地域住民の「連帯感」と隣人の「ゆいまーる精神」を育み日常生活を共有しつつ「地域力」を発揮し、身近な自治会活動で住みよい環境、生きがいあるコミュニティづくりをめざす事の重要性を実感する。

ついては、地域・家庭・学校・行政とのネットワークの更なる連携体制を強化し、組織的に実効ある自治会活動の展開、地域の教育力を高め地域コミュニティの活性化を図るため、今一度それぞれの組織の現状や取り組みを再確認し活動に反映させる必要がある。

1. 自治会の概要

1) 自治会の目的

日常生活を送る中で、あなた一人では解決できないこと。そんな地域の課題を、地域で解決し、住みよいまちを築いていくために活動していくのが自治会である。

2) 自治会の現状と課題

浦添市には、40 区の自治会がありそれぞれ地域特性を活かした活動を展開しているが、団地を除く各自治会では、全体的に言えるのが加入率（平均 26.2%）の低下がある。

その自治会を取り巻く要因として、生活様式の多様化等による自治会への無関心、経済的な理由、人間関係のわずらわしさ、高齢化に伴う活動不能、少子化等多種多様である。特に、若い人達ほど自治会の存在に無関心であり、アパート居住者に至っては定住意識が希薄で、地域の文化・伝統芸能・教育環境等に余り興味を示さない傾向にある。

この現状を踏まえ、地域住民が自治会の役割を理解・共有し、共生意識と連帯感を深め、「地域力の向上」「安心・安全」な住みよい地域づくりに、気軽に参画できる環境整備、雰囲気づくりをする事が求められる。また、自治会加入率の低迷している現在、いかに地域住民のニーズにあったイベントや行事等で「地域おこし」ができるかの施策を検討し、活路を開く必要もある。地域おこしについては現在、地域の伝統芸能が継承されている地区はそれが地域力の核となり活動も盛んである。経塚のイルミネーションや内間自治会の河川の特性を活かした「こいのぼりまつり」などは子どもを巻き込んだ地域おこしの代表的なイベントだと考えられる。地域の環境整備や、身近な地域特性を生かした緑化活動等も協働の「まちづくり」の一環として、地域住民の連帯感を深め会員の輪を広げる方策だと考えられる。加えて、広報による魅力的な実践活動を広く PR することも会員の拡大に繋がる事だと考えられる。

2. 浦添市のまちづくり

1) 基本構想

・まちづくりの目標

「太陽とみどりにあふれた、国際性ゆたかな文化都市」

・まちづくりの方向／五つの政策

政策 1 希望と活力にあふれた生活創造都市

～新たな魅力の創造と市民生活を支えるまち～

政策 2 世界へ翼を広げる交流文化都市

～豊かな心と人を育むまち～

政策 3 共に支え合う健康福祉都市

～心がかよい、夢がつながるいたわりのまち～

政策 4 安全安心でやすらぎにみちた快適環境都市

～自然と共生するやさしいまち～

政策 5 ひと・まち・未来が輝く市民協働都市

～みんなでつくるてだこのまち～

2) 浦添市景観まちづくり計画

○景観まちづくりの理念、目標

【理念】 てだこ市民によるウラオソイ風景づくり

【目標】 ①てだこ市民が率先して取り組む協働の景観まちづくり

②てだこまちのみどりと水辺と微地形を活かした景観まちづくり

③てだこ市民の心を結ぶ歴史文化の薫る景観まちづくり

④てだこまちの活力と国際性を活かした景観まちづくり

○良好な景観の形成に関する方針

《協働の景観まちづくりの方針》

①市民・地域住民の取り組みの方針

【方針・1】 市民が自らの地域を学習し、地域の誇りとなる資源やらしさを見出します（発見、気づき）

【方針・2】 地域の誇りとなる資源やらしさを活かして、誇りあるまちなみを築いていきます（行動、改善）

【方針・3】 住民主体の取り組み維持・継承・発展できる仕組みをつくりまします（継承・発展）

②事業者の取り組みの方針（方針 - 1. 2. 3 がある）

③行政の取り組みの方針

【方針・1】 公共事業については、市民参加のもとで国・県及び関連機関と連携し美しい都市景観を形成します（自らの行動）

【方針・2】 地域住民が主体となった協働の景観づくりが促進されるしくみづくりに努めます（活動支援）

【方針・3】 市民・企業・行政をつなぎ、美しい景観づくりの機運が高まるしくみを作ります（普及、広報）

3) まちづくりの実践

・あじさい公園緑化活動の経緯

小湾川の上流、川沿いにあじさい公園がある。平成 22 年に大平自治会あじさい公園緑化同好会を結成し、同年、平成 22 年（第 10 回）、平成 23 年（第 11 回）浦添市まちづくりプラン賞に応募し、その公園の名称と立地特性を活かし公園周辺にあじさいを植樹すると共に、平成 14 年に川沿に植樹した 40 本余の桜と河川管理道路の緑化活動を実施している。また、桜の開花時には桜鑑賞会&もちつき大会も開催し、地域住民の連帯感・コミュニティづくりと憩いの場として寄与している。

また、今後年次的に小湾川の環境整備と親水性を備えた有効活用に向けた取り組みを検討しているところである。（あじさい公園活動写真）



(H23/1 桜鑑賞会)



(H23/6 あじさい開花)



(H24/2 もちつき大会)

3. 学校支援

1) 子どもの現状

少子化、核家族、都市化、高度情報化など、社会は急激に変化し、地域における地縁的なつながりが希薄化するなど、人間関係も大きく変化している。子どもを取り巻く社会環境は、子どもの人格形成に強い影響を及ぼすと言われている。とりわけ、テレビ、インターネットなどの各種メディア上の性・暴力表現などには、子どもにとって有害と考えられる情報も多く含まれ、子どもの健全育成を図る上で問題になっている。加えて、不審者問題や子どもに関わる凶悪な犯罪の増加など、子どもの育つ環境としては、必ずしも教育的なものばかりではないと言える。

2) 家庭・親の現状

家庭における教育は、すべての教育の出発点であり、子どもの基本的な生活習慣、他人に対する思いやりや善悪などの基本的倫理観、自立心、社会的なマナーを身につける上で、重要な役割を担っている。

しかしながら、都市化や核家族化、少子化、地縁的つながりの希薄化など、家庭を取り巻く社会環境は大きく変化し、兄弟姉妹や祖父母との関係がすくなくなり家庭内は親子の関係だけとなるなど、家庭環境が大きく変化し、家庭の教育力の著しい低下が指摘されている。

3) 学校の現状

いじめ、不登校、学級崩壊などの問題は依然として深刻な状況にあり、教員の意識や学校の本質が社会の変化に柔軟に対応できていないという指摘がある。

また、家庭や地域の教育力が低下しているといわれる中で、学校教育の役割が増大し、安全面や食育の課題など、学校は過度な期待を背負わされているという状況がある。

学校と家庭・地域が連携して取り組もうとする場合、学校の職員の意識の中には、地域の人が学校と関わることに對して「厚い壁」があったが、学校も、「地域の人に力を貸してもらい、いろいろな活動と一緒にやっぺいこう。」というような雰囲気が高まってきている。学校では、総合的な学習の時間を中心に地域の人材や教育資源を活用した学習を積極的に展開するようになってきている。次第に「オープンシステム」、つまり「開かれた学校」に変わってきている。

4) 地域の現状

ここ数年、学校と地域が連携する教育活動が進んだことから、地域によっては、「学校や先生を助けるのが当たり前」というような意識になってきている。

地域には、学校や子どもたちのために何ができるだろうかと考えたり、話し合っていたりして、学校に関わりあいたい気持ちを持っている人がいる。これらの人の多くは、子ども思いで教育に関心があり「子どものために」ということでたくさんの人が集まってくる。

5) 小学校を「核」とした学校・家庭・地域の連携

①学校にとっての効果

イ. 子どもたちの学習活動に幅広い専門性が得られる

情報機器や英会話、地域の歴史など、教員の専門外や不得意な分野に地域の方をゲストティーチャーなどとして協力してもらうことで、質が高く幅広い、豊かな学習となる。

ロ. 小学生の不登校や問題行動に対応できる

学校に親や地域の人が入ることで、多様な人々と児童との交流が期待でき、人間関係が豊かになるとともに、児童に心の居場所ができ、不登校やいじめなどの問題行動への適切な対応が期待できる。

ハ、中学生・高校生は、卒業した小学校を気楽に訪問でき、居場所ができる

その学校を卒業した中学生・高校生にとっては、心安らぐ居場所があるため、母校を気楽に訪問し、お世話になった地域の人々や教員、後輩などとの交流が自然にできる。

ニ、教員にとって、授業の準備などの時間の確保が容易となる

校舎や飼育小屋の補修・塗装、図書の貸出・整理（後記の施設メンテナ型、環境サポーター型の学校支援ボランティア）などに協力していただくことにより、教員の多忙感を緩和することができ、教員本来の授業の準備などに重点を置くことが可能となり、質の高い授業が展開できる。

②家庭（親）・地域にとっての効果

イ、地域の大人は、やりがいを感じ、自己実現が図られる

親や地域の大人、高齢者などが学校支援ボランティアとして子どもたちの学習に関わることにより、自身の学習成果を活かすことができ、自己実現が図られる。特に高齢者にとっては、仲間づくりをしながら、生きがいを持つことができる。学校を核に地域の交流を深めることができ、コミュニティの意識が高まる。

ロ、若い（母）親は、学校で身近な人に子育て相談ができる。

核家族世帯で、身近に子育てや家庭教育に関する相談相手がいない若い母親にとって、学校で地域の人とのふれあいや交流を通して、自然な形で相談や情報収集ができる。

ハ、親や地域住民の、学校に対する理解が深まる

学校に、親や地域の方が学校の教育活動の支援というねらいで入ることにより、学校の教育活動や教員の努力の様子などが把握でき、学校に対する理解者となる。

ニ、取組みにより、学校を中心としてコミュニティができ、地域の活性化と教育力の向上が図れる

子どものために、たくさんの親や地域の人が学校に関わることにより、大人たちがやりがいを感じ元気になり、地域の活性化が図られる。また、こどもとの関わりにより、大人自身の生き方・行動を省みるようになり、学校を中心として教育的な地域をつくることができる。

6) 学校・家庭・地域をつなぐ「コーディネーター」の配置

イ、学校と家庭・地域をコーディネートするために

学校・家庭・地域が連携していく場合には、「連携の調整」が大きな課題である。学校・家庭・地域をつなぐ場合、学校から直接地域に働きかけるなどして、「学校支援ボランティア」や「ゲストティーチャー」などを依頼することが多い。学校・家庭・地域が積極的に連携している学校では、親や地域住民が、ボランティアのコーディネーターとしての「仕組み」をつくり、学校とボランティアとの調整役を果たしているのでコーディネーターの配置は大切である。

ロ、コーディネーターの役割

学校・家庭・地域が円滑に連携していくためには、「コーディネーター」の役割が大変重要である。

学校支援ボランティアなどの「学校応援団」には、学校の教育活動を支援することに対する思いや考えがあり、学校にはそれぞれの教育活動のねらいがある。コーディネーターには、学校と「学校応援団」の間に立って両者を結びつけるだけでなく、両者の思いやねらいを受け止め、「協働」するための調整をすることが大変重要である。

また、親や地域住民が、学校と地域を結ぶ「コーディネーター」として活動するよ

さとしては、

- ・地域の主体性を尊重することで、地域の活性化が図られ、学校と地域の関係が安定する。
- ・その結果として、学校の仕事のスリム化にもつながる。 などが指摘されている。

ハ. コーディネーターの主な活動

- ・学校が必要な「学校支援ボランティア」の内容や人数などの情報収集
- ・「学校支援ボランティア」の発掘と学校への紹介
- ・「学校支援ボランティアの（情報）バンク」の運用・更新
- ・支援する活動内容の打ち合わせ
- ・地域の情報、学校への要望などの収集と学校への情報提供
- ・学校の情報の地域への提供
- ・親や地域の人々の相談活動、悩みや不安の解消
- ・学校の安全確保の取組みに関する支援の調整
- ・「学校応援団「学校支援ボランティア」のネットワーク会議（仮称）などによる、学校側との定期的な情報交換会などの開催。

7) 浦添市学校支援地域本部事業について

① 国県事業の概要

イ. 事業名：学校・家庭・地域の連携協力事業

- ①「学校支援地域本部事業」②「放課後子ども教室」③「家庭教育支援」の事業がある。

ロ. ねらい

地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援することによって、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間が増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図るとする。

ハ. 活動の内容

コーディネーターが、学校の要望を確認し、学校支援ボランティアを活用して、下記の活動を行う。

- ・学習支援活動（読み聞かせ・総合的な学習の時間・不登校の支援）
- ・部活動指導（文化・体育系）
- ・環境整備（施設、備品等の補修・花壇整備、植木の剪定）
- ・登下校安全指導
- ・学校行事

② 浦添市における学校支援地域本部事業

イ. 実施校

- ・神森中学校区4校（神森中学校、内間小学校、神森小学校、沢岬小学校）
- ・浦西中学校区2校（浦西中学校、当山小学校）
- ・仲西中学校区1校（仲西中学校）

ロ. 地域教育協議会開催

- ・構成員：中学校校区を単位として、学校関係者、コーディネーター、PTA 会長 行政等
- ・目 的：地域住民の積極的な学校支援を通して、地域全体で学校を支援する体

制をつくり、学校の教育活動の充実を図るとともに、地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化をめざす。

- ・年2回程度開催

二. 成果と課題

成果

- ・学校や地域、保護者との連携ができた。
- ・ボランティアの協力が学校行事や学習指導を行うことで、子どもたちの喜びとやるきの向上が見られた。
- ・ボランティア活用の体制作づくりができた。
- ・ボランティアが子どもたちとかかわることにより、ボランティア自身の生きがいにつながった。
- ・地域人材を知ることができ、スムーズな支援ができた。

課題

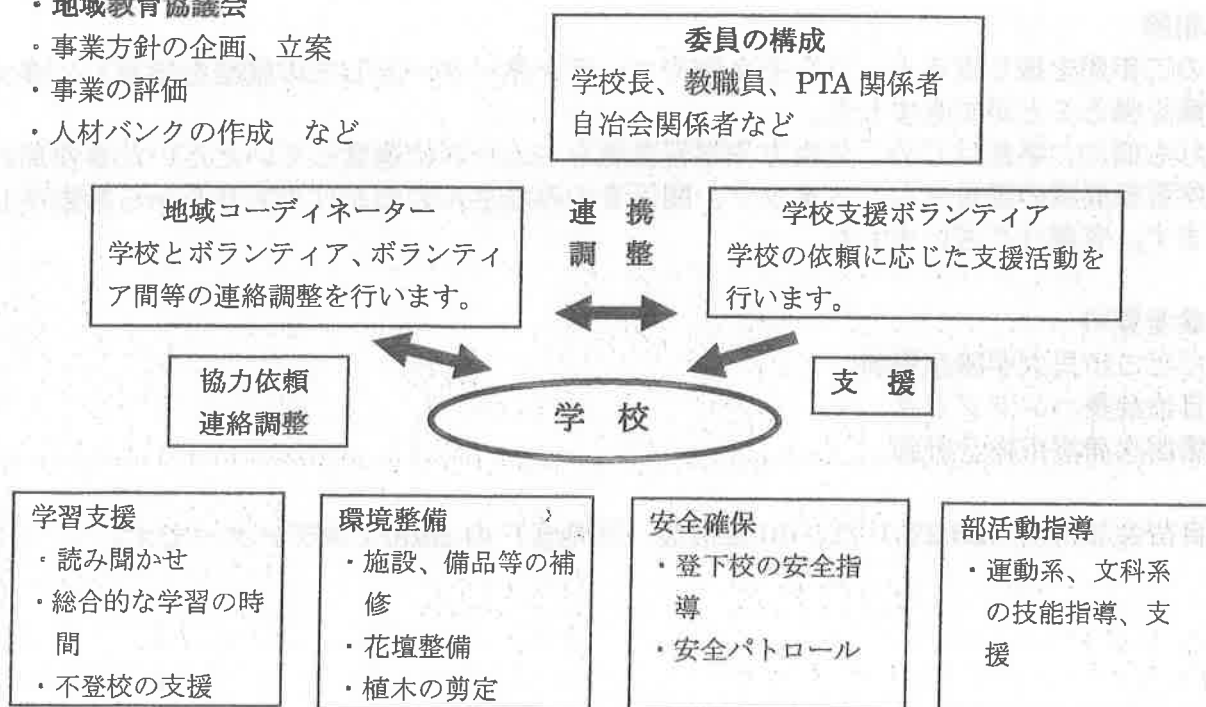
- ・学習支援のボランティアを確保する。
- ・ボランティアが集える部屋を確保する。
- ・コーディネーターやボランティアの資質向上のための研修会を開催する。
- ・広報啓発活動を進める。

③学校支援事業要領（案）作成例

〇〇小学校・学校支援事業要領（案）

1. 名称：実施校（例：沢岬小学校学校支援事業）
2. 目的：地域住民の積極的な学校支援を通して、地域全体で学校を支援する体制をつくり、学校の教育活動の充実を図ると共に、地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化をめざす。
3. 組織

- ・地域教育協議会
- ・事業方針の企画、立案
- ・事業の評価
- ・人材バンクの作成 など



4. 地域ボランティア協力者

基本的には、校区内の地域の住民や学校支援に協力できる方で構成する。

- ① 保護者 ②地域の老人会・婦人会・青年会 ③スポーツ・文化団体
- ④ 大学生、退職者、様々な資格・技能・経験者等の学校支援へ協力できる方々。

※ 沢岬・経塚・大平各自治会に軸となる連絡員を置く

5. 今後の取り組み

浦添市のこれまでの実践の成果と課題から考えると、平成 20 年度学校支援事業がスタートし、年々活動の輪が広がり効果大が伺える。課題としてはボランティアの確保等が求められている。

ボランティアの確保については、自治会を介して、地域住民の幅広い人材を発掘する事。子ども会活動の強化を図り、子どもたちの地域行事への参加率を高める事によって相乗効果として保護者の地域行事への参加率を促す。さらに、地域・家庭・学校が連携を密にした学校支援ボランティアバンクの広がりにつなげる自治会の取り組みを活発にする。

4. まとめ

自治会活動と地域の教育力を活性化するには、現状を把握し、いかに活性化の施策を展開していくかである。このためには、地域住民が、地域社会は自らの生活基盤であることを認識し、自治会の役割を理解・共有し、共生意識と連帯感を深め「地域力」を高める事が不可欠である。

その強化を図るためには、①地域の文化・伝統芸能継承を大切にすると共に、住民のニーズにあった共有できる新たな行事やイベント等で「地域おこし」を開拓する。②身近な地域の「まちづくり」や地域の子どもは地域で育む学校支援活動等を推進力とした「地域・家庭・学校」の連携強化を図る。③浦添市の「夢・まち・人」づくりを目指した「協働」を基本とした活動の強化等で、④「安心・安全」な元気な住みよい地域づくりの基盤である「地域力」と「地域の教育力」の向上に向けた活動が活性化される。

5. 謝辞

この二年間を振り返ると、うらそえ学やコーディネーターとしての講座を学習し、多くの知識を得ることができました。

これも偏に、学長はじめ、先生方や学習環境をスムーズに運営していただいた事務局の生涯学習振興課の課長さん、スタッフ、関係者のみなさんのおかげであり心から感謝申し上げます。有難うございました。

6. 参考資料

- ・てだこ市民大学講座資料
- ・自治会長ハンドブック
- ・第四次浦添市総合計画

※自治会加入率（26.2％）は、40 自治会（団地含）の H23/1 末データーです。

てだこ市民大学 卒業研究

地域の情報ネットワーク作りを目指して
～ラジオ体操会と朝市のコラボで地域に活力～

コミュニティービジネス
地域振興 学部

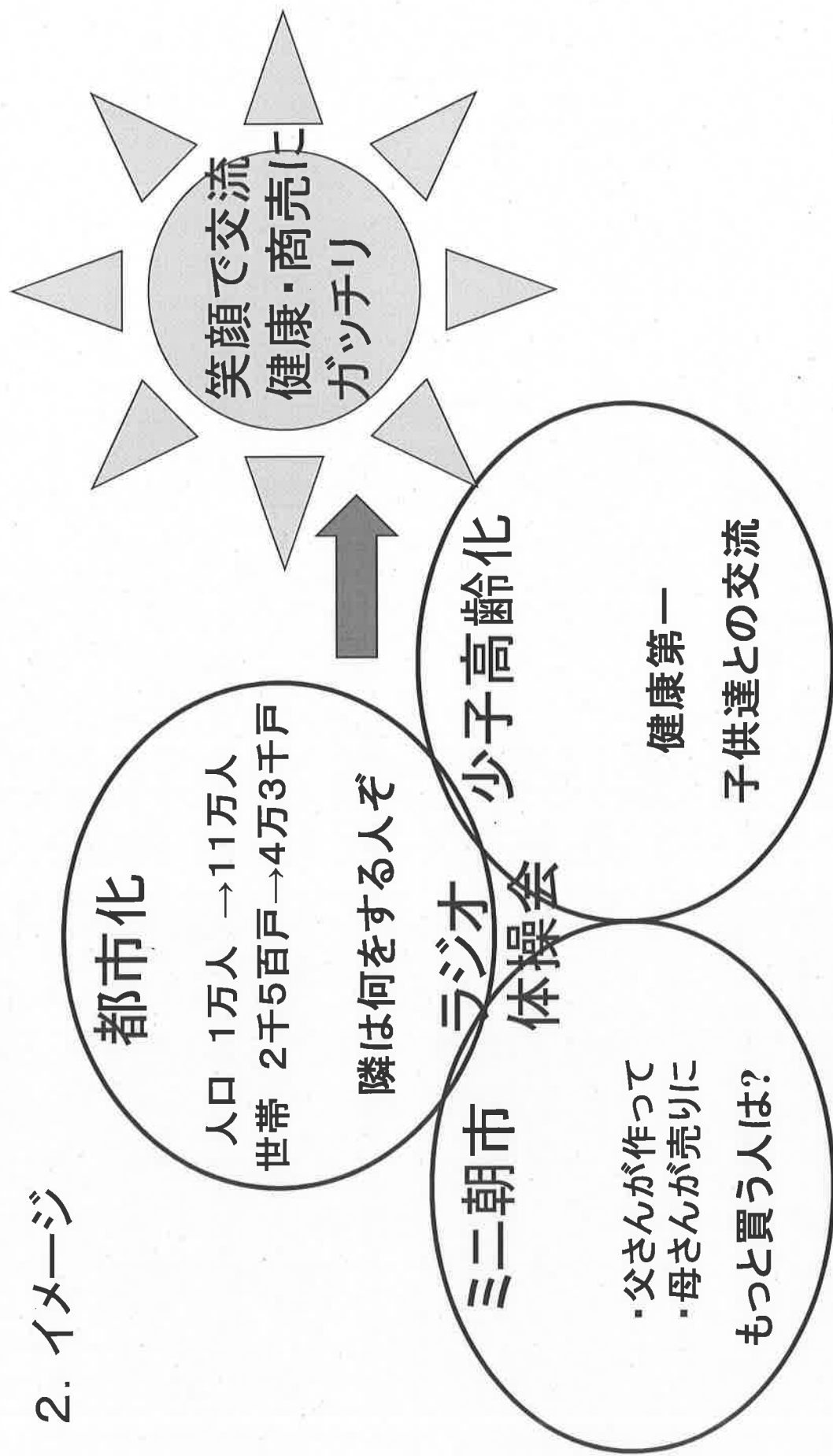
照屋 喜博

平成24年3月

1. 目的

1. 日常的に人が集まる場を作ることによって みんなで商機を見つける
2. 楽しい場、語りの場を作ることにより地域コミュニティーを活性化する

2. イメージ



3. 朝市の事例

1) 浦添市内の事例

① 沢岬地区

名称: ミニファーマーズ

発足: 平成17年5月

場所: 沢岬地内市道

時間: 8:00～9:30

商品: 野菜、豆腐等

客層: 通行車両運転手

リーダーの声

- ・客層は女性→男性
- ・知人増加、情報交換
→料理法等、知識増



オカラのオマケ付きユシ豆腐



歩道脇に品物を並べて商売開始H24年2月撮影

2) 県内の事例

② 名護市羽地山田区

開始：平成20年

場所：山田区公民館

時間：毎週金曜9時から

商品：野菜

客層：市内飲食店の料理人

* 地産地消を実現



3) 全国的事例

② 長野渋温泉

ふれあい三朝市と銘打ち、毎日開催。温泉街の宿泊客に
山菜、野菜、漬物などを販売。名物となっている。

4. 具体的な取り組み

1) 場所: 自治公民館広場、公園 ……トイレが綺麗な事が条件

2) 時間: 6:30~9:00

3) ラジオ体操

① 人を集める

- ・健康をキーワードにして自治会や賛助団体へ協力依頼
- ・ラジオ体操以外の健康に関わるイベントを取り入れる
- ・ゲームを行い、勝者に賞品(出店者提供)を授与

② スタッフ音響係1名、体操係1名

4) 朝市

① 出店者募集→自治会情報、商工会情報等を活用し呼びかけ

② 販売の工夫→100均コーナー設置、生産者プロフィール

5) エンタク場の創出 喫茶ゾーン→お茶+お菓子=100円 収益

6) 宣伝→自治会広報、市のHP、FM21取材、ブログ、ツイッター

5. 運営のための財務

1) 支出 ①設備費用→不要(自治会協力、行政協力)
②協力者謝礼 ③喫茶ゾーン経費

2) 収入 ①出店経費 ②喫茶ゾーン売上げ

6. 課題など

- ・運営主体の確保→体操同好会、朝市同好会の立上げ
- ・永続化を図るため、収益性を高める工夫
- ・自治会関係者以外への広報手段の確立



身近な問題を着実に超えていけばクリアできる

鬼に金棒の「消費者目線と経営者目線」の両睨みで
「虚仮(コケ)の一念 岩をもとおす」となるようにしたい

終わり

